



米合衆國貨幣委員報告書

第六号



A14  
A1405  
8

大正四年五月十日

米合衆國輓近及ヒ將來銀出高ニ付同國貨幣委員へ差出別段報告但就中コムストック鑛脈ニ係ル千八百七十七年二月二十四日

華盛頓ニ於テ

合衆國貨幣委員長上院議員チヨンス氏ニ呈ス

下頁合衆國近年及ヒ將來銀出高調査ノ委任ヲ奉シ乃チ左ノ報告ヲ進達ス

千八百六十一年ニ至ル迄合衆國ニ於テ銀ノ出高一年數千弗ニ過ギザリシガ此年コムストック脈ノ露脈中銀鑛ノ部分初テ功ヲ奏シ銀ノ出高ヲ算スルニ凡ソ二百万弗ニ至レリ(通篇銀ヲ算スルニハ純銀三百七十一トリーグレインニ五ノ弗ヲ以テシ金ヲ算スルニハ純金二十二トリーグレインニ三ノ弗ヲ以テス)千八百七十年迄ハ此脈開鑛ノ進歩ニ隨テ其出高モ亦増加スリ鑛山統計委員ノ報ニ拠レバ此年全合衆國ノ出高一千六百万ニ

大正四年五月十日

至リ其中凡ク五百万ハコムストックノ産ナリ

合衆國鑛山統計委員編製合衆國出銀表

年	出高弗	年	出高弗
一八五八	一、〇〇〇、〇〇〇	一八六五	一、二五〇、〇〇〇
一八五九	一〇〇、〇〇〇	一八六六	一〇、〇〇〇、〇〇〇
一八六〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一八六七	一三、五五〇、〇〇〇
一八六一	二、〇〇〇、〇〇〇	一八六八	一、〇〇〇、〇〇〇
一八六二	四、五〇〇、〇〇〇	一八六九	一三、〇〇〇、〇〇〇
一八六三	八、五〇〇、〇〇〇	一八七〇	一六、〇〇〇、〇〇〇
一八六四	一、〇〇〇、〇〇〇		

下負諸鑛山會社ヨリ報告ヲ收セリト虽氏千八百七十一年頃迄合衆國ニ於テ銀産ノ寥々タルト公務ノ鞅掌ナルトニ由テ此年迄ハ之ヲ編纂セズ唯此年以後ノ者ヲ編纂セリ是其前年迄ノ鑛山統計委員ノ計表ヲ掲ゲテ參看ニ供スル所以ナリ此年ヨリ後諸會社ヨリ差出ス報告ハ頗ル精密ニシテ信ズルニタル

千八百七十一年ベルチェル、エンド、クラオン、ポイント、<sup>オレホデー</sup>鑛体ヲ開掘セリ此年全合衆國出銀高増加シテ千八百五十万弗ニ至レリ其

3

三分ノ一ハコムストックノ脈ヨリ生ジタリ而シテコムストックノ脈ヨリ生シタル銀ノ四分ノ一ハ右ノ新鑛体ヨリ生ジタリ

千八百七十二年ニ於テコムストック出銀總高ノ三分ノ二ハ此新鑛体ヨリ生シタル者ナリ千八百七十三年ニ於テ該脈ノ出銀増加シテ千百万ニ至レリ而シテ具ハ分ノ七八ハ新鑛体ノ産ナリ

此表ハ諸會社ヨリ進達シタル報告ニ拠テ製シタル者ナリ

千八百七十一、七十二、七十三年合衆國出銀表

年	全合衆國出高	内コムストックノ分
一八七一	一、八〇〇、〇〇〇	六、二〇〇、〇〇〇
一八七二	一、八六〇、〇〇〇	六、六〇〇、〇〇〇
一八七三	二、五〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

千八百七十三年ニ於テベルチェル、エンド、クラオン、ポイント鑛体ヨリ産出スル金銀ノ高猶許多ナルニ此年更ニ新鑛体ヲ發見セリ是即チウェルゲン、ヤ合同鑛坑ナリ尔來之ヲ兩別シテウェルゲンニヤ合同坑及ビカリホルニヤ合同坑トナス

千八百七十七年一月一日迄此兩坑ヨリ生シタル總額ハ五千二百六十九万三千七百零九弗ニシテ其年々ノ出高左表ノ如シ

年	ウオルチニヤ坑	カリホルニヤ坑
一八七三	六四五、五八二	皆無
一八七四	四九八、四八四	皆無
一八七五	一六七、七、三九五	三〇三、〇六〇
一八七六	一六六、五七、六四九	一三、一八八、五三九
合計	三九〇、〇二、一一〇	一三、六九一、五九九
ウオルチニヤ坑ハ	三九〇、〇二、一一〇	
總計	五二、六九三、七〇九	

此總額ノ中二千九百二十六万三千五百四十五弗ハ銀ナリ二千三百四十三万零百六十四弗ハ金ナリ金銀ノ年々出高ハ平均千三百万弗ナリ最上出産ノ月ハ千八百七十六年ノ四月ニシテ兩坑ヨリ生シタル金銀ノ高三百六十六万六千五百二十二弗ナリ

キ

此鑛体ヨリ出シタル鑛物凡ソ五十三万七千二百噸ナリ一噸ノ鑛物ヨリ平均九十八弗ヲ得ルナリ一噸平均十三立方「フット」ト

4

為シ坑中ニ於テ右鑛物ノ占ムル所ノ廣サハ六百九十八万三千六百立方「フット」ニシテ百九十八「フット」ノ立方體ヨリ稍大イナリ

○此鑛体ノ立方形ナラザルヤ論ヲ待タズ此鑛体ハウオルチニヤニ於テ深サ千二百「フット」ノ所ニ始リカリホルニヤニ於テハ千三百「フット」ノ所ニ起リ其下ルニ隨テ其廣サヲ増シ千五百「フット」ニ至レバ其廣サ最モ大イニ此點ヨリハ其廣サ再ビ減ズ○此鑛体ハ皆同質ニアラズ所ニ隨テ鑛物ノ多寡アリ且体中到ル所無鑛体ノ散在スルヲ見ル然レ氏今日迄掘出シタル純鑛既ニ百九十「フット」ノ立方体ヲ為シ其大サハ殆ト華盛頓府專賣免許局ノ家屋ニ同ジ

○右ノ大鑛体ノ將來出額見込

此鑛体中ウオルチニヤ及ビカリホルニヤノ兩坑ノ將來出額ニ付テハ去ル十二月下負自ラ之ヲ檢閲セリ左ノ箇條ハ乃チ下負ノ

手簿ニ於ル者ナリ

諸横坑<sup>ノ</sup>坑<sup>ノ</sup>級<sup>ノ</sup>坑<sup>ノ</sup>ヲ巡視シ各所ニ於テ其岩質及ビ鑛質ヲ檢査セリ

千五百「フー」トヨリ下ニ於テハ其上ニ比スレバ鑛体他ノ岩石ヲ去ルコト甚ダ遠シ

千五百「フー」トヨリ下ニ於テハ其上ニ比スレバ其質不同アリ且多鑛部頗ル稀ニシテ相隔タレリ

鑛体ノ最モ南北ニ廣マル所ハ千五百「フー」トノ上ニ在ルガ如シ

鑛体ハ千二百「フー」トニ起リ此ヨリ千五百「フー」トニ至ル迄ハ漸々ニ富ミ此ヨリ下ハ其大リ漸ク減ジ其質亦漸ク惡キガ如シ

○右ノ鑛体ハ前ニ関キタルコムストック脈中ノ諸鑛体ニ類

似ス

此諸鑛体ハ通例重凸四形<sup>ノ</sup>形<sup>ノ</sup>如ニシテダビットン山中ノ水晶<sup>ノ</sup>岩ノ中ニ散在ス此水晶岩ハ無價金屬ヲ含ミ此山ノ東面ヲ蓋ヒ

恰モ其蒙ノ如シ鑛体ハ此山ノ花崗石体ニ近在シ之ト同方向ヲ以テ斜傾ス坑ヲバ通例鉛直ニ掘リ花崗石ニ達ス既ニ之ニ達ス

レバ山側ニ平行シ斜線ニ之ヲ掘ル○地平隧道即横坑ヲ作りテ鑛物ヲ取ル若高準ニ比スレバ低準ニ於テハ鑛体ノ西限ト花崗

岩トノ距離多キ寸ハ鑛体ノ形ト花崗岩ニ對シテ其位置ト鉛直坑ヨリ之ニ横進スル方法トニ由テ鑛体ノ狹窄スルヲ見ル大鑛

体ニ於テハ毎ニ此例アリ

コムストック鑛脈ニ於テハ鑛体ノ形位置及ビ之ニ近進スル方法ニ由リテ又別ニ一種ノ事件ヲ生ズ○既ニ鑛体ニ達セシメ及ビ鑛体ノ盡シ寸俄ニ此事ヲ見ル此事トハ多鑛部ノ始マルト盡

大蔵

クルトニ於テ毫モ前兆ナキ事ナリ○第一横坑ト最末横坑トハ  
鑛体ノ大徑ヲ通過ス如何トナレハ地平横坑重凸圓形ニテ東  
ニ傾ク所ノ体ヲ横切スルニハ必ず斜ニ其大軸及ビ小軸ヲ斜切  
スベケレバナリ

千八百六十八年千八百六十九年ノ鑛山委員ノ報告ニ右ノ諸鑛  
体ノ普通性質ヲ詳録セリ今之ヲ左ニ記ス

コムストック脉ノ一種著キ徴候ハ鑛床(鑛体ノ在ル地)中ニ無  
價鑛体ト有價鑛体ト迭々在ルノ一事ナリ而シテ無價体ハ

鑛脉ノ過半ヲ占ム有價鑛体ハ形容定リナシ然レハ一般ニ  
重凸円形ヲ為ス兩分スレバ新月形トナリ稍凹凸鏡形<sub>如シ</sub>ノ

ニ似タリ斜ニ鑛壁<sub>鑛体ヲ狭  
ハ岩ノ類</sub>ノ間ニ横ル通例「フート」ワール  
鑛壁ノニ始リ「ハンギング」ワール<sub>鑛壁ノ一種</sub>ノ近傍ニ終ル

○全コムストック脉將來出高見込

上ニ掲載シタル種々ノ事情ヲ觀レバワールチニヤ及ビカリホル

ニヤノ兩坑ノ鑛体ヨリノ出額ハ千八百七十六年四月ノ最上額  
ニ比スレバ漸々減サスベシト雖モ猶富鑛体タルヲ失ハズ其

出高及ビコムストック脉中ノ他ノ諸鑛体ノ出高ニ此鑛体及ビ他  
ノ現今閑坑又ハ掘リ盡シタル諸鑛体ノ鑛屑ヲ加フレバ銀ノ大

額ヲ得ベシ但脉中ダビッドソン山ノ蒙ヲ為ス部ハ長サ三里ニシ  
テ或有價鑛物アリト云フ此部ノ或坑ハ千八百「フート」ノ深ニ至

リ諸所ニ於テ二千「フート」ニ及ベル者アリ此ヨリ淺キ所ニハ鑛  
体ナシト云フ但ワールチニヤカリホルニヤ兩鑛坑ノ鑛体ハ此限

ニアラズ此脉中他ノ鑛坑ノ出高ハ専ラ掘リ尽シタル諸鑛体ノ  
枝末鑛屑等ヨリ出ル者ナリ

掘坑ノ極テ深キ事此迄發見シテ掘リ盡レタ諸鑛体ヲ相離ス  
レ事向ク鑛体ヲ發見スルノ確乎タル目度ナキ事坑中ノ熱キ事

大蔵

諸所ニ旅行内若ヨリ難キ事其外深入スルニ付種々畏ル可キ障碍

空氣ノ通ヲ為シ難キ事其外深入スルニ付種々畏ル可キ障碍  
アルヲ以テ此脉ニ於テ千八百七十六年ノ如クニ多ク貴金屬金

銀以下同ジ)ヲ出シテ世界ニ供スルコトハ今後期シ難シ  
ソト口隧道ニ由テ出高ノ減少スルヲ遏止スベキヤ否ヤニ付テ

ハ吾ハ唯此隧道ヲ岩中三英里半ニ通ズルニハ久ク時ヲ費スノ  
ミナラズ且全コムストック脉ハ此隧道ヲ此脉ニ合セントスル點

ヨリハ既ニ數百「フー」ト深ク掘リ込ニ蜂巣ノ如クニ穿チタリト  
云フ一事ヲ記センノミ

故ニ此隧道ヲ開クモ脉中一ノ新鑛体ヲ發見セザルベシ若現今  
諸坑ノ下ニ於テ鑛体ヲ發見スルコトアルモ此隧道ニ由テ鑛物ヲ

出スハ其勞正ニ鉛直坑ニ由テ之ヲ出スニ固シ毫モ迅速ナルコ  
無ルベシ如何トナレバ今ヨリ五年ニシテ新鑛体ヲ發見スルコ  
アルモ半英里ノ鉛直坑ヲ以テ之ニ達スルヲ得ベシ然ルニ隧道

ヨリスレバ唯四英里ヲ要スルノミナラズ又目途ノ如ク隧道既  
ニサウエーゲ坑ニ達スルモ數百「フー」ト下ヨリ鑛物ヲ引揚ゲザル

コトヲ得ザルナリ  
子グダノ將來出高見込

此迄コムストック脉外子グダノ諸坑ハコムストック脉ノ出不出ニ  
関シテ盛衰アリ將來ト雖モ亦然ルベシ鑛業ヲ行フニハ未ダ鑛

体ヲ發見セザル前ニ大ニ財本勞力ヲ費サバコトヲ得ズ而シテ  
其贏利ヲ問ヘバ唯通常ノ利ノミ故ニ久ク不景氣ノ事アレバ格

別ノ損耗ニアラザルトモ速ニ之ヲ廢スルナリコムストック脉ノ  
速ニ切ヲ奏セシヤ初ハ此ニ由テ大ニ子グダノ銀坑開掘ヲ勵マ

セシガ其後殊ニ近來ハ他地方ノ財本盡クウカレデニヤ府ニ輕湊  
スル勢アルヲ以テ子グダノ鑛業ハ大ニ衰フレ色アリ  
又近來夜價ハ騰起シ銀價ハ大ニ下落セシニ由テ鑛業人ノ失望

大蔵省

ヲ生ジタリコムストック諸坑ハ平均金銀ノ出高大異同ナシト虽  
氏此脉外ノ諸坑ハ金ヲ出サズ故ニ金銀ノ割合ノ變レルニ由ラ  
皆コムストックヲ好ムニ至リ他ノ諸脉ハ銀ヲ剝出スルニ付之ヲ  
賣捌キ金銀貨ニ引換フルニ非常ノ割引ヲ受ルヲ以テ皆之ヲ好  
マザルニ至レリ  
コムストック脉ノ出高減サスル寸ハ子ヴダ州ノ此脉外ノ出高ハ  
増加スベシ小坑ノ好露脉ノミニテ其下ニ鑛脉ナキ者ハ其業ヲ  
廢スベシト虽氏現今開掘スル大脉ノ多鑛ナル者ハ永ク之ニ費  
シタル財本ヲ償フベキ利ヲ生ジ該州ヲシテ永ク大額ノ銀ヲ生  
ゼシムベシ

全合衆國將來出銀見込

子ヴダヲ除キテ全合衆國ノ銀ノ出高ハ未ダ嘗テ多ラザルナリ  
故ニ若子ヴダノ第一等鑛体既ニ盡クルニ至ラバ我國ノ出銀ハ

ハ大ニ寥々タルニ至ルベシ

子ヴダ諸坑ニ右ノ如キ衰頽アリト看做スモ將來全國ノ出銀高  
毎年二千五百万ニ下ラザルベシ但歐羅巴亞米利加ノ銀論ニ由  
テ政府ノ律法ニ變革ヲ生ジ鑛業ニ關係ヲ起スカ或ハ亞細亞ニ  
銀ヲ輸出スルノ多クシテ其價ノ高低ヲ生ズルノアレバ右ノ限  
ニ非ス

西沿海諸山ニ於テ銀鑛極テ多シ此諸山ヲ以テ將來數百年間世  
界ニ銀ヲ供スルニ足ル然レ氏開掘ノ進歩ヲ勵スニハ數件ノ良  
キ都合アリテ鑛業人ニ大利ヲ得セシムルニアラザレバ之ヲ行  
フベカラザルナリ

従前出銀統計

今將來ノ事ヲ舎テ更ニ従前ノ事ヲ記セントスルニ先キ此迄  
出銀ノ統計ヲ作りシ者ハ皆信スベキ所アリト虽氏其調査ノ方



法ニ於テ多少欠タル所無キヲ得ザルコトヲ記セザルヲ得ズ後附録ニ於テ猶此事ヲ詳ニセン

此迄諸會社ヨリ進達シタル諸報告ハ專ラ子ワダ州ニ係リ十七年間ノ事ヲ録セリ今唯其最後六年間ノ報告ヲ編纂セリ前ニ記セル如ク子ワダノ諸坑ハ殆ド合衆國ノ出銀ノ全部ヲ占ム子ワダ外ノ出銀統計ニ付テハ最モ信拠スベキ報告ニ基キ附録諸表ノ下ニ於テ付言ヲ記シタリ

此報告ノ真正ナルコトハ固リ疑ヲ容ルベキニアラズ唯其諸坑ノ役員ヨリ保證シテ下負ニ送致スル所ナルヲ以テ斯ク云フニアラズ先時子ワダ州ノ課稅官ニ差出シタル警報ニ照シテ之ヲ見ルニ一々符合セザルハ無シ殊ニ上等鑛坑ノ諸坑ハ下負親ク其元帳及ビ賣上帳ヲ検査セリ地金ノ報告ハ此帳ニ基キテ製スル

所ナリ故ニ此報告ニ於テ過誤アルコトナシ若之アルハ編纂ノ際之ヲ生ジタル小錯誤ニシテ下負之ヲ知ルコト能ハザルナリ千八百七十三年ノ末迄ノ年々出額ハ既ニ前ニ記シタリ千八百七十四年後ノ出額ハ左ノ表ノ如シ

年	全合衆國銀出高	内コロストツク分
一八七四	二五、四〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇
一八七五	三〇、二〇〇、〇〇〇	一四、五〇〇、〇〇〇
一八七六	三八、二〇〇、〇〇〇	二〇、六〇〇、〇〇〇

此報告ニ拠レバ去六年間合衆國ノ出銀高ハ平均毎年二千六百万弗許ニシテ其最モ少キハ千九百万最モ多キハ三千八百万ナリ三千八百万ハ千八百七十六年ノ高ナリ左ノ表ニ於テ諸會社ヨリ進達シタル報告ヲ他ノ諸報告ニ比較セリ

千八百七十一年ヨリ同七十六年迄ノ合衆國出銀高日報告比較表

第一〇千八百七十六年一月十二日同七十年一月二十四日

サンフランシスコ貿易時報ナリ

第二〇千八百七十五年ノ報告ナリ

第三〇千八百七十七年一月十八日ノサンフランシスコ貿易新報ナリ

易新報ナリ

第四〇ハレーモンドノ報告ナリ千八百七十六年セラデルヒ

マ、鑛山局ニ於テヒーワットガ鑛業及金屬ノ演説ニ  
扱

第五〇ハガンスルガ倫敦ノロスチルド社ニ出シタル報告ナリ

リ英吉利銀委負報告ニ之ヲ載セタリ

第六〇千八百七十六年十二月三十日ノワレンチンノ改正

雜誌ナリ

第七〇千八百七十七年二月五日ワレンチンガ合衆國貨幣

委負ヘノ改正報告ナリ

第八〇千八百七十六年十一月ヨリ翌年二月迄ノ諸鑛業會

社ノ報告ナリ

年	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八
一八七二	二四、二四六	二三、〇〇〇	二五、〇〇〇	二二、〇〇〇	二〇、二九〇	二〇、二八六	一九、二八〇	一八、二一一
一八七三	二七、五四九	二八、〇〇〇	二八、〇〇〇	二五、七五〇	二九、〇〇〇	二〇、五二七	一九、九二四	一八、五五六
一八七四	四四、六〇〇	三五、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、五〇〇	三二、五〇〇	二八、三三二	二七、四八三	二五、一三一
一八七五	四六、六〇〇	四〇、〇〇〇	三七、〇〇〇	三三、八〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、四九八	二九、六九九	二五、四〇二
一八七六	四八、〇〇〇	四〇、〇〇〇	三八、〇〇〇	四一、四〇〇	三五、〇〇〇	三四、〇四三	三一、六三五	三〇、二〇九
			四五、〇〇〇		五〇、〇〇〇	四一、五〇六	三九、二九二	三八、一八四

千八百七十七年一月二十四日新聞紙ニ①ハ三千八百五十萬②ハ四千零二十五萬③ハ四千六百五十萬ト改メタリ

此比較ヲ觀レバ諸會社ノ報告中記スル所ノ額ハ他ノ諸道ニ云フ所ヨリ少キヲ見ルベシ出額ヲ誇言スルコトハ常ニ免レザル

所ナリ蓋諸報道ノ云フ所ハ多クワレンテン氏ノ計策ニ基キシ者ナルベシワレンテンハ最モ老練ノ人ニシテ自ラ其實ニ過ルヲ知レリ斯ク實ニ過ルハ其據ル所ノ通運簿記ノ重複ヲ正スルノ難キニ由テナリ

第一ト記シタルサレ、フランシス工貿易新報ノ計策ハ明ニ統計官報ニ掲ゲタル貴金屬ノ輸出高造幣高國內用高ニ基キタル者ナリ國內用高ニ基キテ計策ヲ起スノ誤謬ヲ免レザルコトハK附録ニ記シタル鑛山統計委員ノ報告鈔ヲ見レバ判然タルベシ加フルニ税関ニ於テ<sup>下</sup>地金<sup>通篇</sup>地金ト云フハ專ラ金銀ノ地金ヲ誤テ銀ト為スコトハ足下ノ親試スル所ナリ

此事情ヲ以テコムストックノ出銀額ハ常ニ其實ニ過ギタリ或新聞紙ニ於テハ鑛ヲ以テ盡ク銀ト為スベキガ如クニ説ク者アリ此近世間普通ノ出銀表ニ過策ノ多キハ專ラ此ニ坐スルナリサ

レバガンズル氏ハ千八百六十九年ヨリ千八百七十三年迄其手ヲ經ルコムストック地金凡ソ六千萬アリテ平均皆六割五分ノ銀アルヲ見テ此割合ヲ以テ此脈ノ全出額ヲ推策セシノミナラズ此年以來モ亦同ク此割合ノ出額アリト抗論スルニ至レリ上ノ表ニ記シタル其計策ヲ見ルベシ

コムストック産地金ノ中銀ノ割合表

年	出銀 <sup>銀</sup> 神	出金 <sup>金</sup> 神	銀ノ割合
一八七一	六、二〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	六割零八厘
一八七二	六、六〇〇、〇〇〇	六、三〇〇、〇〇〇	五割一分二厘
一八七三	一、〇〇〇、〇〇〇	一〇、五〇〇、〇〇〇	五割一分
一八七四	一、九〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	四割九分
一八七五	一、四、五〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	五割五分五厘
一八七六	二〇、五〇〇、〇〇〇	一八、〇〇〇、〇〇〇	五割三分二厘

△ハ金一弗銀十六弗ノ慣習比例ニ依ルコトハ該年ノ市相場ナリ  
千八百六十九年及ビ千八百七十年ノコムストック地金ニ幾割ノ

銀アリシヤニ付下負未ダ之ヲ明言スルコト能ハズ此兩年ノ報告  
ハ下負ノ許ニ在リト虽氏未ダ編纂ヲ閱ザレバナリ然レ氏千八  
百七十一年ニ於テハ六割零五厘ノ割合ナリ千八百七十二  
年ニ於テハ五割一分二厘ノ割合ナリ千八百七十三年ニ於テハ五割  
一分ナリ此ヲ以テ見レバガンスルノ論ハ粗語スル所アリ千八  
百七十三年以來銀ノ割合平均五割一分四厘ニ過ギズ  
右ノ表ハ其明細ヲ示ス

我邦ニ於テ金銀ノ出額ヲ誤算スレバ其關係タルマ甚ク大イナ  
リ國家ノ貧富ノ関スル議院ノ決議モ此計算ニ由テ左右スル所  
ナラズ人民ノ盛衰ノ係ル貿易モ此計算ニ基キテ進止セザルヲ  
得ザルナリ此類ノ著キ例ハロベルトソン氏ノ答書ヲ見レバ判  
然タルナリ

結末ニ於テ下官敢テ下官ガ其玩ヲ検査シ或ハ其簿記ヲ檢閲シ

タル諸鑛業會社ノ社長書記監督其他ノ役員ノ下官ニ貴重ノ報  
道ヲ與ヘ調査ノ助ヲ為セシコトヲ明言シ且ガンスルワレンラロ  
ベルトソン三氏が善ク下官ヲシテ其統計ノ方法ヲ検査セシメ  
唯空説ニ伐ルヲ以テ足レリトセズ真個事實ヲ定認シテ更ニ統  
計ノ大業ヲ進メントスルヲ嘉シ且ツ其大ニ我が調査ノ便利ヲ  
助ケタルコトヲ明言セントス

アレキサンドル、テルマル



ユールカ合同坑 (ユールカ郡)	三〇四、九一三	三〇〇、三四九
リッチモンド合同坑 (同)	六六、五一四	一七九、五四三
レーモンド、イリー (リンコン郡)	三四、〇四〇	一、三二七、五〇〇
ミードーワルレー (同)	四二、六一三	一、六六六、九一五
アルパス (同)	四〇	一、五五八
アメリカンフラグ (同)	七七四	三〇、九六六
イルドラド、サオス (ナイ郡)		一〇〇、一八五
イベルハルド、オーロラ (ワイト、パイン郡)		五四二、三八五
ヘニキス (ユールカ郡)	一一、八七八	五九、四〇〇
ブツテルユップ (ランドル郡)	八三、四六四	一二五、一九五
ロスリン (同)	五六、二五〇	一一二、五〇〇
ワード、ビーチル (同)	五五、九四三	一一一、八八七
ミ子ラルビール (イルコ郡)	一〇七、七三三	三二二、二〇一
アリゾナ (ホンボルト郡、ブエナビスタ区)	四、六一九	三三九、八〇八
パイオセー (リンコン郡)	六九六、八四八	一八〇、一七〇
子ワダ中他ノ諸坑及ニ鑛		二、〇九〇、八四三
以上コムストック外子ワダ諸坑合計	一、四八五、〇〇七	七、八八〇、七六四
① 子ワダ金銀産出高	五、五六二、四三四	一、四、一一一、三五一
② 子ワダ外合衆國銀出高		四、〇〇〇、〇〇〇
③ 合衆國銀出高総計		一、八、一一一、三五一

ザウエーチ	二四八、八二六	五四八、一八六
ベルチル	三、〇九二、四八二	一七〇、二一七
クラオニポイント	一、九四三、六八一	二、六二六、八二五
チヨルラルポトレ	四〇五、一九五	五三七、一二五
シールラ子ワダ	一二七、四二八	皆無
ヘール、ノルクロス	一九〇、三九〇	四二七、二二〇
ケントク	四一、八三三	九七六、一〇〇
ヤルロー、チャケツ	一六〇、二〇〇	三七三、八〇〇
鑛層 (概算)	一〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
以上コムストック脈合計	六、三一〇、〇三五	六、六一二、九四三
ユールカ合同坑	五〇〇、七一九	四九三、四六三
ミードーワルレー	三二、五八八	一、二七〇、九四九
パイオセー (リンコン郡)	五、八一〇	二二六、六〇七
レーモンド、イリー	九二、三八三	三、六〇一、三八五
ヘニキス	八六、二三〇	八六、二三〇
他ノ諸坑及ニ鑛層	一四二、五〇〇	四、二七五、〇〇〇
以上コムストック外子ワダ合計	二、二四二、七三〇	九、九五三、六三四
① 子ワダ金銀出高	八、四五二、七六五	一、六、六六六、五七七
② 子ワダ外合衆國銀出高		二、〇〇〇、〇〇〇
③ 合衆國銀出高総計		一、八、五六六、五七七

波

千八百七十三年合衆國銀産表 常曆ヲ以テ算ス

礦業會社ノ名即坑名	金 テ算ス	銀 テ算ス
サウエーデ	二六、七三五	六五、二六五
ウオルチニヤ合同坑	三一四、二八九	三三一、二九三
ベルケル	五、七四八、九四七	五、〇三〇、五三三
クラオンポイント	三、六七五、八九〇	四、六四〇、九二〇
チヨルラルホトシー	二〇、八六五、二	三、四〇、四三二
シールラ、子ワダ	一三、三九三、五	皆無
ヘール、ノルクロス	一九五、五一三	三九八、三七七
ケントク	一〇、四八六	二、五六七、二
インペリアル合同坑	五、六五九	七、八八八
ヤルローチャケツ	一七、〇〇〇	三二、〇〇〇
デヤステス	二二、六五〇	三〇、六四三
グード、コルリー	皆無	皆無
以上コムストック脈合計	一、〇四九、三七五、六	一一、〇三七、〇二〇
ユールカ合同坑 (エーレカ郡)	五〇、四七〇、八	四九七、三九四
マンタン (ランドル郡)	二一、四〇〇	四〇、六六〇
北ベル	皆無	九五、〇〇〇
ミード、ワルレー (リンコルン郡)	一八、四五〇	七一、九五五、〇
レーモンド、イリー	五六、九七五	二、二二二、〇二五
他ノ諸坑及ヒ鑛層	二〇、七六、九三六	一、一五三、八七一
子ワダ外合衆國銀出高	一、三二七、二二五	一九、一三一、四六〇
合衆國銀出高總計	二五、一三一、四六〇	六、〇〇〇、〇〇〇

仁

千八百七十四年合衆國銀産表 常曆ヲ以テ算ス

礦業會社ノ名即坑名	金 テ算ス	銀 テ算ス
ウオルチニヤ合同坑	二、〇六三、四三八	二、九一八、〇四六
ベルナル	五、七〇二、三六四	三、四七、五一九
オヒル	一九七、八四五	二、四六、八九七
クラオンポイント	三、一五三、七三八	三、五九一、七八一
デヤステス	五、八九六	七、九七六
チヨルラル、ポトシー	一七、一九五、二	三四九、一五
インペリアル合同坑	一〇〇、一〇〇	一〇〇、〇〇〇
ヘール、ノルクロス	九三、八三五	二〇、四六六
シールラ、子ワダ	九〇、六五七	皆無
他坑及ヒ鑛層	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
以上コムストック脈合計	一二、五七九、八二五	一一、八八一、〇〇〇
ユールカ合同坑	四、五〇、二〇二	四、四三、六七七
北ベル	皆無	一、四、五八五
リチモンド合同坑	四〇〇、〇〇〇	八、六三一、二〇
他ノ諸坑	八〇〇、〇〇〇	二、二〇〇、〇〇〇
以上コムストック外子ワダ	一、六五〇、二〇二	三、五二一、三八二
子ワダ外合衆國銀出高	一四、二三〇、〇二七	一五、四〇二、三八二
合衆國銀出高總計	二五、四〇二、三八二	二五、四〇二、三八二

保

千八百七十五年合衆國銀産表 常曆ヲ以テ算ス

礦業會社ノ名即坑名	金 金幣ヲ以テ算ス	銀 銀幣ヲ以テ算ス
ウオルヂニヤ 合同坑	七〇三五、二〇七	九六八二、一八三
カリホルニヤ (此年初テ産ス)	二五〇、〇〇〇	二五三、〇六〇
ベルテル	二、一六、八六九	一、一、二、一〇五
オプセル	八、一〇、九六六	九、九、九、九八
クワオンポイント	一、一五〇、九二八	一、九、四、五、四、七
グヤステス	一〇、一、二、三、八	一、九、六、五、五、二
オヴルマン	皆無	皆無
インベリヤル 合同坑 (カインベリヤル、インベリヤル)	二六、三、三、三	五、四、〇、三、三
ヘールブルクロス	三、五、五、四、八	六、五、九、五、一
北ベルレ	四、九、四、七、五	一、四、八、四、二、五
レオバルド (イヌマラド郡)	皆無	八、四、三、六、七、二
ユーレカ合同坑 (ユーレカ郡)	二二、〇、九、〇	三、四、六、〇、七、八
リッテモンド合同坑 (ユーレカ郡)	五、四、九、三、六、三	五、四、一、四、〇、二
アルプス (三月一日ヨリ十二月三日マテ)	四、五、八、三、三、三	九、一、六、六、六、七
タイボ (ナイ郡)	一、八、三、二	三、四、八、一、七
ギラ (ナイ郡)	二五、〇、〇、〇	二、四、五、〇、〇、〇
他諸坑	皆無	二、九、〇、〇、〇、〇
以上コムストック外子ワダ合計	一、三、九、九、六、四、九、一	六、七、一、七、六、三、六
子ワダ金銀出高	二、二、五、六、六、一、八	二、一、二、〇、九、九、八、六
子ワダ外合衆國銀出高	一、三、九、九、六、四、九、一	九、〇、〇、〇、〇、〇、〇
合衆國銀出高總計	三、〇、二、〇、九、九、八、六	三、〇、二、〇、九、九、八、六

邊

曆千八百七十六年子ワダ常曆ヲ以テ算ス  
ストック脈金銀産出表 諸礦業會社ヨリ合衆國貨幣委員ノ報告ニ基キテ之ヲ製セリ

礦業會社ノ名即坑名	金 金幣ヲ以テ算ス	銀 銀幣ヲ以テ算ス
ウオルヂニヤ 合同坑	七、三、七、八、一、四、五	九、二、七、九、五、〇、四
カリホルニヤ	六、三、八、九、〇、八、五	六、七、九、九、三、五、四
ベルテル	一、一、八、四、二、五、二、六	一、九、九、二、三、六、四
オプセル	一、一、一、五、八、六、三	一、二、四、三、四、〇、一
クワオンポイント	三、八、九、〇、八、九	五、一、一、五、三、四
グヤステス	二、二、〇、五、七、五	六、九、三、四、五、九
オヴルマン	三、五、七、三、六、二	四、八、三、四、九、〇
インベリヤル 合同坑 (前表ヨ)	一、七、二、九、六、三	三、五、四、四、四、二
ヘールブルクス、スルイス	二、一、九、二、八	三、四、〇、六、二
諸監定局	七、四、五、四、〇	七、〇、四、六、三
シルラ子ワダ	一、八、七、七、〇	八、〇、八、一、八
サウエーヂ	二、二、〇、六、〇	二、七、〇、八、七
ヘールノルクロマ	〇	〇
ケントク	〇	〇
コンハイデンス	〇	〇
グードゴルー	〇	〇
ヤルロー、ヂマケツ	〇	〇
他諸坑皆無	〇	〇
合計	一、八、〇、〇、二、九、〇、六	二、〇、五、七、〇、〇、七、八



登

常曆千八百七十六年コムストック外子ワダ州金銀産出表 諸鑛業會社ノ報告ニ據ル  
前表ノ如シ

鑛業會社及ヒ區名	金 金幣ヲ以テ算ス	銀 銀幣ヲ以テ算ス
① 上ト記シタルハ上等金屬ノミヲ出ス下ト記シタルハ下等金屬ヲ産ス		
○オースチン區 (ランデル郡)	六二、五〇〇	一、一八七、五〇〇
○コロンプス區 (イスメラルド郡)	無	一、五一五、五八五
北ヘルレ (上)	無	一〇九、二〇四
ゼララルドマス區 (イルコ郡)	全	四五八、九八〇
シオパルド (上)	二、一九二八	二、〇六八
パンセル (上)	一、三二二	二、〇四一、五八
○ユーレカ區 (ユーレカ郡)	二〇七、一六〇	一、一六六、四〇〇
ユーレカ合同坑 (下)	四五三、六〇〇	一、一〇〇、一〇〇
リチモンド合同坑 (下)	四五、〇〇〇	一、一〇〇、一〇〇
K, K, (下)	四、〇〇〇	一、一〇〇、一〇〇
○イリー區 (リンコルン郡)	一四、三〇九	五、五八、〇四七
レーモンド、イリー (上)	八、八四七	三、三〇五
ミード、ワルリー (上)	八、〇九六	一、五三、八二〇
アルプス (上)	二、八二六	四、五、一七八
○タイカンフラグ (上)	無	四、六八、七六二
○タイポール區 (ナイ郡)	七、四〇〇	四、六八、七六二
○レウエル區 (ナイ郡)	無	五、〇〇〇
○レウエル合同坑 (下)	無	一、四〇〇、〇〇〇
他諸坑	無	一、四〇〇、〇〇〇

知

常曆千八百七十六年子ワダ州金銀産出表 諸鑛業會社ニ據ル  
前表ニ同シ

鑛坑區名	金 金幣ヲ以テ算ス	銀 銀幣ヲ以テ算ス
コムストック脈 (邊表ヲ參看)	一八、〇〇二、九〇六	二〇、五七〇、七七八
コムストック外子ワダ (邊表ヲ參看)	二、三三七、七九八	七、四六二、七五二
子ワダ金銀出高合計 ①	一九、三四〇、七〇四	二八、〇三二、八三〇

利

常曆千八百七十六年全合衆國銀出高表 諸鑛業會社ヨリ貨幣委員江ノ報告  
及ヒ其諸報告ニ據テ之ヲ製ス

州名及屬地名 (知表參看)	銀 銀幣ヲ以テ算ス
子ワダ	二八、〇三二、八三〇
ユータ	三、三五一、五二〇
コロラド	三、〇〇〇、〇〇〇
カリホルニア	一、八〇〇、〇〇〇
アリゾナ	五〇〇、〇〇〇
モンタナ	八〇〇、〇〇〇
アイダホ	三〇〇、〇〇〇
ミシシッピ	四〇〇、〇〇〇
合計	三八、一八四、三五〇

合衆國銀出高別段報告附録

千八百七十七年二月二十四日華盛頓ニ於テ合衆國貨幣委

員ハ

先般委任ヲ奉シ出銀高調査ヲ行ハント欲シ其豫備トシテ去十一月電信ヲ在サンフランシスコユナブグ代議士合衆國上院議官ウォルリヤム、シャロンニ送リテ諸鑛業會社ヨリ千八百七十六年間ノ收銀計筭報告ヲ出サシムルヲ請ヘリ

シャロン氏ハ求ニ應ジテ教會社ヨリ右報告ヲ取り立テ其外種々調査ノ豫備ヲ為サシメタリ

十二月四日下官新納克ヲ登シ直ニ子ブダノウォルチニヤ府ニ至リコムストック脈ノ重立キタル有利坑ニ至リテ之ヲ検査シ然ル後サンフランシスコニ至レリコムストック脈其他太平洋ニ面スル諸銀坑ノ簿記皆此府ニ在リ此地ニ於テ議シャロンノ徵收シタ

諸報告ヲ得又更ニ諸會社ノ簿記計筭ヲ調査シテ委任ノ旨ヲ辱  
メザルコトヲ期シタリ

此外先般合衆國ノ銀産調査ニ從事シタル諸氏ノ記録ヲ取リ其  
調査ノ方法ヲ比較シ其得失ヲ察シタリ今ロベルトソン氏ワレ  
ンテシ氏ガンスル氏ノ答ヲLMNト區別シ此下ニ附ス

一月八日下官サンフランシスコヲ發シ十六日ワシントンニ達  
シタリ往來ヲ合シ全旅行四十三日ナリ今統計表ヲ記スルニ先  
キテ此迄我が邦ノ地金出高ヲ統計スルニ用ヒタル數法ヲ畧説  
スルヲ便トス

### 外國輸出内國費用法

此法ハ外國ニ輸出シタル地金ノ高ヲ精算シ之ニ内國ノ造幣及  
ビ諸工ニ費用シタル高ヲ加フルナリ輸出ノ高ハ諸税関ノ統計  
ニ由リ造幣ノ高ハ諸造幣場ノ綜紀ニ由ラ之ヲ知ルト雖氏諸工

ニ用ヒタル高ハ従前ヨリ之ヲ實檢スルノ方量ナキヲ以テ唯推  
量ヲ以テ之ヲ定ムルナリ推量ヲ以テ定ムルガ如キハ最モ誤謬  
アリト雖氏誤謬ノ原因唯之ニ止ラズ輸出統計ノ如キモ未ダ完  
全ニ至ラズ精確ヲ欠ク所少ラズ税関ニ於テ船貨目錄調査ヲ經  
ル後別ニ船貨ヲ積ミ入ル者少ラズ律ニ之ヲ禁ズル明文アリト  
雖氏多ク之ヲ見逃シ罰ヲ之ニ加ヘズ今八百六十七年合衆國ノ  
貿易航海報告ヲ參看スベシカナダ及び近傍外國領輸出ノ税関  
報告ハ極テ粗漏ニシテ定則ナシ外國ノ地金ト内國ノ地金ヲ區  
別セス皆概シテ之ヲ輸出トナス往々雜地金ノ半ハ金半ハ銀ナ  
ル者ヲ概シテ銀ノ部ニ記スル者アリ  
右ノ外此方法ニ不便ノ一件アリ輸出官報ノ刊行遲滯スルニ由  
テ數月ヲ過ル後ニ非ザレハ之ヲ知ルコト能ハザルナリ  
諸工ニ費シタル銀ニ付統計局ノ計筭ハ毫モ考證ト為スニ足ラ

通運法

此方法ハウェルスハルゴ通運會社ノ監督ワレンテン氏ノ久ク用  
フル所ナリソールト湖以西ノ鑛業人及ビ鑛業會社ハ大抵皆其  
運送ヲ此會社ニ委任スルヲ以テワレンテン氏ハ此ヲ好機會ト  
ナシ此會社ノ帳記ニ拠テ地金ノ出高ヲ算シタリワレンテン氏  
ノ計筭書ヲ見レバ今氏ハ之ヲ以テ最良法ト思ヘルガ如シ然レ  
氏ロベルトソン氏ハ此法ヲ以テ過實ニ流ル、ノ方法トナシテ  
之ヲ取ラズ此方法ニ付故障ノ件數條アリ

第一ニハミツソリー河以西ノ金銀地金ハ盡クウェルスハルゴ社  
ノ手ヲ經テ運送スルニ非ズ且ソールト湖以西ノ者ト雖氏必ス  
シモ此社ノ運搬ヲ經ザルナリ此社ハオグテン以西ノ金銀及ビ  
雜地金ノ運搬ヲ專占スルト雖氏金屬金塊ノ他ノ手ニ由テ運送

スル者頗ル多ク其多少ヲ精算スルニ由ナシ他ノ手ヲ經ル者ノ  
中鑛業人及ビ其代人ノ自ラ負擔スル者最モ多シ之ニ加フルニ  
ユーレカタイボ其他子グダノ諸地方ヨリ産スル鉛銅其他下等  
金屬鑛中ニ金銀ヲ含有スル者皆通常ノ運賃ヲ以テ之ヲ汽車ニ  
積ムナリ汽車役負ハ一般ニ此下等金屬鑛ノ價如何ヲ知ラズ且  
之ヲ知ラント欲スルモ之ヲ認定スルノ方法ナシ況ンヤ其含有  
スル金銀ノ多少ニ於テヤ右ノ諸件ニ付確報ヲ得ルニ道ナキ  
ヲ以テワレンテン氏ハ唯推量ヲ以テ計筭ヲ為セリ且ワレンテ  
ン氏ハ自ラ信ゼザルモ運送簿記ニ於テ重複アルマ蓋疑ヲ容レ  
ザルナリ如何トナレバワレンテン氏ハ此方法ヲ以テ他ノ諸方  
法ノ正否ヲ看破スルノ器械ト為シタリト雖氏下官ニ差出シタ  
ル同氏千八百七十六年子グダ州一年銀産報告ハ諸鑛業會社ノ  
報告ニ比スレバ其高甚ダ多ケレバナリ

六十六、六十七、六十八 間ニ於テ同氏ノ説ヲ參照スベシ  
第二〇。ワレンテン氏ハ其報告中通運ニ係ル銀地金ト記シタル部  
ニコムストック脈ノ雜地金ヲ記入セリ此地金半ハ金ヲ含ムナリ  
ロレンテン氏ハ固リ其金幾分銀幾分ナルヲ識別スルノ手段ナ  
シ如何トナレバ通運會社ハ地金塊ノ價ニ基テ之ヲ舩積スレバ  
ナリ(同氏ノ報告ヲ參看スベシ)ワレンテン氏ガ通運銀地金ノ部  
ヲ其毎年報告中ニ記載シタルハ實ニ我が邦ノ不幸ト云フベシ  
此ニ由テ大ニ世間ノ唱フル所ノ銀産過實ノ説ヲ助ケタリ且ワ  
レンテン氏ガ其報告ニ題スルニ諸州及諸屬地云々ヲ以テセル  
カ如キハ頗ル不正ト云フベシ同氏ハ此題ヲ以テ合衆國中ミッ  
ーリー以西ノ諸州諸屬地ヲ云フ者ノ如シト雖其報告中又英  
領コロンビヤ及ビメキシコ西沿海ノ出產ヲ混記セリ  
ワレンテン氏ハ其報告中ニ千八百七十六年十二月以前ハ其運  
送簿記ニ由テ定タル計筈ヲ檢校スベキ諸鑛坑實際ノ報告ヲ得

スト記セリ故ニ千八百七十六年以前ノ同氏ノ報告ハ下官ノ收  
シタル此年前ノ報告ノ如キ證左ヲ以テ檢校シタル者ニ非ス  
ワレンテン氏ハ又千八百六十二年分千八百六十二年ト千八百  
七十年ノ間二年分此二年ノ號ヲ記セズ千八百七十年分千八百  
七十一年ヨリ千八百七十六年迄六ヶ年分ノ計筈ヲ為シタリト  
記シタリ其千八百七十年前ノ計筈ハミッーリー以西全地方ノ  
金銀ノ混同計筈ニ係ル千八百七十年ヨリ同七十五年ノ計筈ハ  
毎州ヲ別テ運送高ニ據テ之ヲ定メタリ千八百七十六年ノ計筈  
ハ毎州ヲ別テ運送高ニ由テ金銀ノ各高ヲ別記セリワレンテン  
ハ千八百七十六年ノ金銀ノ高ヲ以テ其毎年ノ割合トナシ同七  
十五年ヨリ七十一年ニ沂リ此割合ヲ以テ毎年ノ金銀ノ高ヲ別  
チタリ然レ氏稍誤筈ヲ為シ其記シタル銀ノ高大ニ實ニ過ギタ  
リワレンテン氏ガ斯ク誤筈セル所以ハ千八百七十六年子ワダ

州ノ全出產金銀ノ中金ヲ三割五分トナシ銀ヲ六割五分ト為セシニ由テナリ其答ニ自ラ其誤算ナリシヲ告ゲタリ然レ氏同氏ハ自ラ其誤算ノ大小ヲ精知セズ此誤算ニ由テ如何ガ其計算表ノ體面ヲ汚ガセンヤヲ察セザルト見エ千八百七十一年ヨリ同七十五年迄ノ概定計算ニ亦此法ヲ用ヒタリ

### 銀行法

此方法ハロベルトソン氏ノ取ル所ニシテ其答ニ之ヲ明説セリ其答ニ據レバサンフランシスコノ三銀行ニ於テ盡ク子ブダ及ビカリホルニヤニ産スル銀ヲ收握スルト見ユ此方法ニ於テハユーター―其他諸地方ノ小銀坑ヨリ産スル小額ノ銀ヲ算入セスト虽氏概算ヲ以テ此小額ヲ定メ之ヲ銀行ノ手ヲ経ル高ニ加フレバ其計算ハ中ラズト虽氏遠ラザルナリ此銀行法ヲ用ヒシハ千八百七十六年ヲ以テ初ト為ス

ロベルトソン氏ニ接見セントキ其他ノ一法ヲ語ルヲ聞ケリ即チ左ノ法ナリ

### 鑑定法

合衆國ニ産スル銀ハ一般ニ鑛物鑑定人又ハ造幣場ニ送致シテ其鑑定ヲ受ルナリ此限ノ外ニ在ル者ハ船舶ニ積ミ外國ニ送ル小額ノ銀鑛ノミ故ロベルトソン曰ク鑛物鑑定人及ビ造幣場ヨリ報告ヲ出サシムルモ其數十二三ニ過ギズシテ出銀高ノ精確ヲ得ベシトワレン氏其他老練ノ人亦此説ニ同意セリ老練者數人下負ニ教ヘテ政府ヨリ令ヲ發シテ全國ノ鑑定人ヲシテ其鑑定報告ヲ大蔵省ニ出サシムレバ出銀ニ付信ズベキ統計ヲ得ベシト云ヘリ

### カンスル氏法

カンスル氏ノ方法ハ諸方法ヲ斟酌シテ皆之ヲ用ヒ左ニ記シタ

ル課税官法ヲモ用フルナリ但カンスル氏ノ善ク計策ヲ為スハ其方法ノ良キヨリハ寧ロ同氏ノ材幹ト其秀逸ナル判断トニ由ルナリ

### 課税官法

千八百六十四年ニ發行シ千八百六十五年同六十七年同七十二年ニ改定シタル子ワダ州ノ律法ニ拠テ州中金銀ヲ産スル諸坑ノ純出高ニ毎年百分一ノ從價稅ヲ課シタリ純出高ヲ確定スル為ニ律法ニ概算出高ヲ報告スベシト掲ゲタリ此律法ニ基キテ毎四季ニ此報告ヲ出スナリ或ハ鑛業會社ハ右ノ報告ヲ出スニ課稅ヲ避クル為ニ其實際ノ出高ヲ詎セザルベシト疑フ人アリ然レ氏千八百七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、六七年間ノ課稅官ヘ差出シタル報告ト此回下官ノ調査セル諸會社ノ此六年間ノ地金帳トヲ比較セ

シニ大不同ヲ見ズ諸會社ノ課稅官ニ報告スル所毎ニ實ヲ以テシ頗ル精確ナリ故ニ此報告ハ諸鑛坑銀産ノ真額ヲ記スル者ト云フベシ但下官ヘノ報告ト符合セザル件アリ左ニ之ヲ記ス

一ニ三鑛坑ヨリ課稅官ヘノ報告ニ唯純金高ヲ記スル者アリ此件ニ於テ課稅官ノ報告ニ誤アリ

二ニ三鑛坑ニ於テハ若干「フト」ノ深サニ至リシ後將來格別ノ利益ナキヲ目算シ之ヲ他人ニ貸シテ其殘鑛ヲ掘ラシメ貸賃ヲ收スル者アリ此殘鑛ノ報告ハ借人ヨリ直ニ課稅官ニ出ヌヲ以テ其出高ヲバ鑛業會社ノ地金帳ニ記セザルナリ此點ヨリ云寸ハ課稅官ヘノ報告ハ下官ヘノ報告ニ比スレバ精確ナリ

稅ヲ避クル為ニ出額ヲ包匿スルノ理ナキニ非ズト虽氏稅官ヘノ報告ハ毎四季ニ之ヲ出ス事稅官ハ其收ムル所ノ稅額ノ一部

ヲ以テ其俸給ト為ス事報告ニ於テ出額ヲ包匿スル者ハ多分ノ  
贖金ヲ以テ之ニ課シ其鑛坑ヲ封スル暫時ノ間之事鑛坑ニ株式  
アリ而シテ其株式ノ相場ハ稅官ヘ差出ス其誓報ニ由テ上下ス  
ル事等ヲ參考スレバ大ニ疑ヲ解ク所アラシ

### 地金帳法

此方法ハ下官ノ實際施行セル所ニシテ本局委員長ノ教ニ從ヒ  
シナリ委員長ハ親ク鑛業ヲ實行シ善ク諸鑛業會社ノ簿記法ニ  
通曉ス此法ハ諸會社ノ地金帳ニ就テ地金ノ出產高ヲ知ルナリ  
然レモ定期時限内ニ之ヲ行フニ付數件ノ困難アリ一ニハ銀ヲ  
業トスル小會社ノ多數ナリニハ諸社皆自家ノ會計年度ヲ立テ  
毎社皆其年度ニ依テ出產ノ簿記ヲ為スナリ三ニハ近年迄往々  
金銀ヲ雜記スルアリ又甚キハ今日ニ至テ猶之ヲ區別セザルナ  
リ

然レモ下官此困難ヲ排却セリ其法大社ハ各社小社ハ諸社合シ  
テ報告ヲ收シ全出高ヲシテ毫末モ脱落セシメズ報告ハ月ヲ別  
テ之ヲ收シ常曆年度ヲ以テ之ヲ編纂スルニ便リレ金銀ハ監定  
証書ニ就テ之ヲ區別セリ但會社ノ計筈ハ此社<sup>監定証書ニ</sup>未ダ諸金屬ヲ  
別録セザル者ニハ今後地金ヲ記スルニハ鑛坑ヨリ地金ヲ廻漕  
スル寸之ニ附スベキ監定証書ニ從テ金銀其他ノ金屬ヲ別記ス  
ベシト命ジタリ

右ノ次第ニテ將來合衆國ノ銀出高ノ精筈ヲ行フノ道ヲ開キタ  
リ其法唯諸會社ヨリ報告ヲ徵收シ課稅官ノ報告ヲ以テ其正否  
ヲ檢校スルノミ  
千八百七十一年ヨリ千八百七十六年迄ノ毎年出銀ノ景況ハ左  
ノ比較表ニ詳ナリ

此表ハ既ニ前篇ニ出テタリ故ニ記セス前篇ノ比較表ヲ看



ルベシ

足下ノ命令書中(附録參看)調査スベキ件々猶教多アリ下官一々之ヲ調査シ其實況ヲ記シタリ然レモ未ダ之ヲ編纂セザルヲ以テ他日編纂シテ覽觀ニ供セントス

アレキサンドル、デルマル

合衆國出銀高調査委員アレキサンドル、デルマルヨリ同國貨幣委員ヘ差出シタル別段報告附録ノ統計表附各表ニ分属スベキセリ等ノ符号ヲ以テ參看スベシ

以千八百七十一年合衆國銀産表ノ附言

- 一ハ諸會社ヨリ合衆國貨幣委員ヘノ報告ニ基キタル子ワグダ州ノ金銀出高ナリ
- 二ハ諸報告ニ基キタル子ワグダ外全合衆國ノ銀出高ナリ
- 三ハ全國ノ銀出高總計ナリ

イヤルロー、ゲケツノ報告ハ其會計年度ニ從テ千八百七十一年六月ニ終レリ此表ヲ製セル後今年ノ常曆一歳ノ報告ヲ得タリ金銀合シテ百五十四万二千六百零八弗ニシテ金銀ノ割合ハセントクニ同シ

ロヘニキスブ、テルスコップ、ロスリン、ワードビー、チャルミ子ラル、ヒル諸坑ノ地金合計ハ誤算ナカルベシトモ其金銀ノ割合ハ或ハ然ラズ金ノ割合多キニ過ギタリ然レモ此諸坑ヨリ出ス所ノ合計猶寥々ナルヲ以テ目今ニ在テ別段調査ヲ要セザルガ如シ故ニ暫ク其報告ニ拠レリ

ハ詠州鑛物委員ノ報告中ニ掲載シタル課稅官報告ニ就テ其詳細ヲ知ルベシ

ニ英吉利領事ブーケルノ英吉利銀委員報告附録六十四ニ據ルニ千八百七十一年子ワグダ除キ全合衆國ノ銀出高ハ僅ニ

英貨二十万磅即チ我が百万弗ナリ然レモブルークルノ誤レル  
ヤ明カナリユーターアイダホーモンタナ各々銀百万弗ヲ出  
シコロラドハ殆ド二百万弗ヲ産セリ

鑛山統計委員ノ報告ヲ參看スベシ

〔百〕千八百七十二年合衆國銀産表ノ附言

一 二 三 ハ前表ニ同ジ

イ ヤルロ、チャケツノ報告ハ其會計年度ニ由テ千八百七十二  
年六月三十日ヲ以テ終トナセリ此表ヲ製セシ後同年十二月  
三十一日迄全年ノ報告ヲ得タリ金銀合シテ十九万五千五百七  
十四弗ニシテ金ト銀トノ割合ハセントクニ同ジ

ロ ミード、ワルレー、パイオセレー、モンドイリノ金銀割  
合ハ金二分五厘ニシテ銀九割七分五厘ナリヘーニキスハ兩  
金屬平分ナリ然レモ金ノ方稍少キナルベシ

2

ハ 此項ノ細目正ク該州鑛物委員ノ報告及ビ課税官ヘノ報告  
ト符合ス故ニ一々之ヲ登録セズ

ニ 此項殆ド課税官ヘノ報告ニ符合ス此報告ニハ金銀合シテ  
二千四百七十二万二千二百五十弗ナリ

ホ 千八百七十二年鑛山統計委員ノ報告ナリ

〔波〕千八百七十三年合衆國銀産表ノ附言

一 二 三 ハ前表ニ同ジ

イ 此年セントクハ報告ヲ課税官ニ出サズ

ロ インパイルハ此後インペリヤル合同坑ニ合併セリ此年其  
課税官報告ハ十四万二千三百九十九弗下負ヘハ僅ニ五万二  
百零四弗ト報告セリ

ハ ヤルロ、チャケツノ報告ハ其會計年度ニ由テ此年六月ヲ以  
テ終トナス此表ヲ製セシ後十二月三十一日迄満一年ノ報告

ヲ得タリ金銀合シテ四万零百弗ニシテ其割合ハケントクニ  
同ジ

③ グード及ビユルリーハ課税官ニ二万五千二百十七弗ト報  
ジ下負ニ皆無ト告ゲタリ

④ 課税官ノ報告

⑤ 又銘凡ソ四十六万零八百二十一弗ヲ出セリ

⑥ マンハタン社ノ刊行計美(千八百七十四年鑛業報告百九  
十二葉)ニハ千八百七十三年ノ總出高ヲ六十六万千六百九  
十二弗トアリ

⑦ ユーヘレカ郡ノロッビーノ報告ニ其總出額凡ソ二十五万六  
千四百九十五弗ニシテ其七割四分ハ銀ニ割六分ハ金ナリト  
アリ同郡ノロッビーハ鑛七千噸ヲ生セリ之ヲロッビーニ於テ碎キ  
十六万九千三百三十三弗ヲ得金銀ノ割合ハ上ニ同ジロッビーハ

此鑛ヲ九万弗ニテロッビーニ賣レリ此外ロッビーハ鑛九千五百噸  
ヲ生シ其價概美三十九万三千弗ナリホンポルト郡ノライ、パッ  
チ金銀合十万零九千七百八十弗ヲ産セリ

⑧ 此項重ニユーターニ係ルユーターハ銀五万二千四百二十  
六弗銘九十五万八千三百六十五弗銀九万七千百三十五弗ヲ  
生ゼリ

⑨ 千八百七十四年合衆國出銀表ノ附言

⑩ 一 二 三 ハ前表ニ同ジ

⑪ インペリヤル合同坑ニ屬スル諸會社ヨリ下負へ差出シタ  
ル報告ニハ此年皆無トアリ然レハ課税官ノ報告ニ於レバ借  
坑人ノ收シタル者二十万弗アリ(借坑人ハステヴンソン)

⑫ 此年ヤルロー、チャケツノ報告ニハ僅ニ二三千弗ヲ記セリ且  
其金銀ヲ區別セズ故ニ他坑ニ合記セリ

ハ 課税官ノ報告中ニ細目ヲ掲ケタリ

ニ 細目ニ付テハ課税官ノ報告ヲ見ルベシ此報告ハ下負ヘノ報告ニ符合ス

ホ 合衆國鑛山委員ヘノ報告ニ拠テ之ヲ纂ス

保 千八百七十五年合衆國銀産表ノ附言

一 二 三 ハ前表ニ同ジ

イ 表ニ記シタル金銀ノ外エーレカ合同坑ヨリ生ジタル銘ノ價五十万零千五百九十三弗アリ

ロ 表ニ記シタル金銀ノ外リチモンド合同坑ニ於テ生ジタル銘ノ價五十万弗アリ

ハ 表ニ記シタル金銀ノ外タイボーヨリ生ジタル銘ノ價三万弗アリ

ニ 表ニ記シタル金銀ノ外子ワグ諸坑ヨリ産ジタル下等金属

ノ價二十万弗許アリ

ホ 此表ヲ製セシ後子ワグ州ノ鑛物委員ワイチングヨリ此年ノ報告ヲ課税官ニ出セリ此報告ニ子ワグ州金銀總出高三千五百二十五万二千五百八十五弗ト記セリ

ヘ 此年エーターノ出高ハ翌千八百七十六年ニ比スレバ其五分ノ一少シト定メ又他ノ細目ヲバカリホルニヤ及ビ諸屬地ノ銀坑ニ比較シテ計纂ヲ為セリ

邊 千八百七十六年コムストック脉金銀産出表ノ附言

イ 此年カリホルニヤ坑ヨリ課税官ヘノ報告ニハ千三百四十万零々八百四十一弗トアリ

ロ 此表ヲ製セシ後ベルキルヨリ改正報告ヲ出シ金百八十二万九千二百弗銀九十九万零八百零六弗ト記シ表ノ高ニ比スレバ一万四千八百三十弗ヲ減セリ

ハワレンテン氏ウルスハルゴ社代人在ウオルヂニヤ府ペンデ  
ルガストノ報告ヲ以テ惠セラレタリ此報告ニ鑛屑ヨリ生シ  
タル者千万弗以上ト記セリ然ルニ課税官ノ報告ニハ僅ニ二  
十三万三千弗ト記セリ

ニラデーブリヤンハ三千九百四十弗ヲ生セリ

登千八百七十六年コムストック外子グダ州諸坑金銀産出表

ノ附言

イ表ニ記シタル諸坑ヨリ生ジタル金銀ノ外下等金属ノ價ハ  
概畧ユールカ合同坑十八万九千四百四十六弗リチモンド合同  
坑五十万弗区区五万弗タイボー合同坑九万零七百十二弗ナ  
リ

ロ往時此地トパイオセーヲ合シテリースリバート云ヘリ

ハマシハタンノ出高中ニ他ノ数小坑ノ出高ヲ合算セリ小坑

ノ重ナル者ハインテベンテンスパナメントパキストンナリ  
其鑛ハ金銀銅ヲ含ム金銀ノ割合ハ銀九割五分金五分ナリ銅  
ノ價ハ之ヲ算セズ金銀銅ヲ含メル地金ヲオースチンヨリ通  
運ヲ経テ新納克ニ送り此ヨリ歐羅巴ニ送ル此地金ノ中銀其  
ハ割ニ居ル

ニレオパルドヨリ此年トスカロラ區ノグランドプライズ坑  
雜地金一万千九百零六弗ヲ産セリト報セリ此高ハ子グダ中  
他坑ノ出高ニ合記セリ

ホユールカ合同坑ノ諸金属ノ割合ハ千八百七十五年十月同  
七十六年十二月ノ兩船積ヲ平均シテ金三割四分半銀三割四  
分鉛三割一分半ナリ

ヘリチモンド合同坑ハ五鎔爐ヲ設ケ毎月鎔ス所四千乃至  
五千噸ナリ又分銀場ヲ設ケ粗地金ヲ精製ス東洋ニ送テ精

製スル者ハ唯其小部分ノミ又近傍諸小坑ノ粗地金ヲ鑄製ス  
 千八百七十四年ノ報告ニ下等金屬(鉛)ノ價五十万弗トアリ  
 ①ヲ参考サレバ全出高ノ三割五分ハ鉛ナルヲ知ルベシ  
 ②金ハ僅ニ二分若クハ三分ノ割合ニシテ平均二分五厘ナ  
 リ  
 ③千八百七十六年十二月ノ船積ニ拠ルニタイボー諸金屬ノ  
 割合大低平等ナリ

④細目ハ課稅官ノ報告ニ就テ知ルベシ此報告ハ下算ノ報告  
 ニ異ナルヲナシ

⑤知 千八百七十六年子グダ州金銀產出表ノ附言

⑥千八百七十六年ノ上三季課稅官ノ報告ニテインドル區五十  
 九万八千二百七十九弗リンエールン區七十三万三千六百六十  
 六弗エーレカ區百五十五万五千六百五十一弗ナイ區四十五

万千三百五十三弗ワイト、パイン區四十三万五千七百五十六  
 弗ストーレー區二千九百五十七万三千四百九十八弗イスメ  
 ラルダ區百零三万七千零八十二弗リオン區二千二百六十三  
 弗イルユ區二十八万五千六百九十六弗ホンボルト區八万二  
 千四百七十四弗鑛屑五十三万七千四百六十九弗以上合計三  
 千五百二十九万三千百八十七弗ナリ此高ニ下一季千七百七十  
 六万四千三百九十六弗ヲ加フレバ此年ノ總計ハ四千七百零  
 五万七千五百八十三弗トナリ殆ド本表ニ符合ス

⑦利 千八百七十六年合衆國銀產表ノ附言

⑧ウオルヂニヤ、イントルプライス蓋新聞名 千八百七十七年一  
 月十一日前一年ユーターノ金屬產出高ヲ記スルヲ下ノ如シ  
 銀百九十四万六千九百十五「ランズ」一「ランズ」一弗二十九「セン  
 ト」トナシ二百五十一万五千五百二十弗ナリ「シルグーブルク」

不詳直譯 八十四万弗ヲ加ヘ合計三百三十五万五千五百二十弗  
 ナリ金八千八百二十「ラ」此價十八万二千三百零九弗砂金  
 十萬弗金合二十八万二千三百零九弗銅十五万七千五百三十  
 九磅鉛五千零四万八千九百九十三磅ナリ他ノ諸州ノ計筈ハ  
 諸報告ヲ比較シテ之ヲ定タリ

奴 附録

千八百七十七年二月五日サンフランシスコ

在華盛頓デヨンス君ヘ

足下下負ノ呈シタル千八百七十六年ノ報告ヲ檢閲セハ必ズ其  
 ノキシコ西沿海ノ銀及ビ英領コロンビヤノ金ヲ以テ合衆國ノ  
 金銀産出高ニ合記セルヲ以テ其高大ニ實ニ過キタルヲ見シ  
 下負足下委負ノ意ニ負カラザルヲ欲シ下負ノカノ及ブ所ハ頗  
 ル改正ヲ加ヘ左ノ表ニ於テ千八百七十年以降合衆國ノ純出産  
 ヲ記シタリ

年次	英領コロンビヤ及 タキシボヲ合シテ ルス、ハゴ社ノ計 算	英領コロンビヤ 及ノキシコヲ除 キタル高	金 屬	分
一八七〇	五四,〇〇〇,〇〇〇	五二,一五〇,〇〇〇	一〇八〇,〇〇〇	一七,三二〇,〇〇〇
一八七一	五八,二八四,〇〇〇	五五,七八四,〇〇〇	二,一〇〇,〇〇〇	一九,二八六,〇〇〇
				三三,七五〇,〇〇〇
				三四,三九八,〇〇〇

一八七二	六二、二六、九五九	六〇、三五、八二四	二、二五〇、〇〇〇	一九、九二四、二九九	三八、一〇九、三九五
一八七三	七二、二五八、六九三	七〇、一三九、八六〇	三、四五〇、〇〇〇	二七、四八三、三〇二	三九、二〇六、五五八
一八七四	七四、四〇一、〇四五	七一、九六五、六一〇	三、八〇〇、〇〇〇	二九、六九九、一二二	三八、四六六、四八八
一八七五	八〇、八八九、〇五七	七六、七〇三、四三三	五、一〇〇、〇〇〇	三一、六三五、二九九	三九、九六八、一九四
一八七六	九〇、八七七、一七三	八七、二九、八五九	五、〇四〇、〇〇〇	三九、二九二、九二四	四二、八八六、九三五

ワレンテン啓

留 附録

千八百七十年鑛山統計委員ノロツキー山西鑛山報告鈔  
 我邦ニ於テ金銀産出高ヲ算定スルニ大ニ難キ所以ハ一ハ未ダ  
 其方法ノ備ラザルト鑛山ノ遠隔地方ニ散在スルト鑛業ノ性質  
 ニ於テ已ムヲ得ザル事情ト鑛業人ノ其真個ノ損益ヲ公告スル  
 ヲ忘ムトニ在ルナリ

吾ノ鑛山統計ノ任ヲ受タルヤ大ニ此點ニ注意セリ前統計委員  
 ノ金銀報告ハ大ニ廻漕輸出造幣課税ノ計算ニ超過ス其實ニ過  
 ギタルヤ疑ヲ容レズ前委員吾ニ教フルニ鑛山ノ在ル諸州諸屬  
 地ニ在留スル鑛業人ヨリ精密ニシテ該博ナル報告ヲ收スルコ  
 ヲ以テセリ然レモ下算ノ受クル所ノ定額金僅少ナルヲ以テ唯  
 當時之ヲ行フコト能ハサリシノミナラズ現今ト雖モ猶之ヲ施ス  
 コト能ハザルナリ然レモ都合ノ出来タル諸所ニ於テ老練鑛業人  
 ニ就テ諸報告ニ漏ルベキ産出ノ高ヲ問ヒ夫々其報告ヲ得タリ  
 且吾多年諸鑛地ヲ經歷シ頗ル實驗スル所アルヲ以テ右老練人  
 ノ計算ニ於テ無根ノ條アルコトヲ知レバ乃チ專断ヲ以テ之ヲ改  
 正セリ我ガ決算ノ根據ト為セシ所ハ曰ク諸大鑛坑ノ産出報告  
 曰ク地金ノ通運高曰ク諸通運會社ノ收シタル運送賃曰ク白哲  
 人ト支那ハノ坑夫ノ數曰ク其給料曰ク現時用ユル碎鑛器ノ數



及ビ其カ曰ク堀坑及ビ分金ノ費用是ナリ此計策ノ如キ固ヨリ概算ニ係ルヲ以テ産出ノ精數ヲ得ザルヤ論ヲ待タズ然レ氏吾未ダ他ノ方法ヲ以テ算セル者アルヲ聞カズ故ニ其精數ヲ欠クガ如キハ吾ノ責ニアラザルナリ云々

右ノ決算ハ造幣及ビ輸出統計ニ據ラズ而シテ此二種ヲ合計スルニ以スレバ大ニ超過セリ或ハ曰ク造幣局及ビ其諸分局ノ金銀造幣高(地金ノ俵ニテ預ケ人ニ返付シタルヲ減ス)ト本國産ノ地金ノ輸出トヲ合スレバ金銀ノ出高ノ大概ヲ得ルナリト然レ氏吾ハ此説ニ從フヲ能ハズ今請フ其所以ヲ説カン其説ニアリ造幣及ビ輸出ノ計策ヲ經ル地金ノ高ノ精數ナラザル(地金價附ニ異同アルノ類)一ナリ此方法ノ体裁既ニ大ニ欠クル所アルニナリ若レ吾ヲシテ深ク輸出造幣法ノ非ナルヲ信ゼシメザレバ吾ハ唯造幣局及ビ海關ノ報告ニ由テ鑛業ノ景況ヲ知ルヲ以

テ足レリトナシ大ニ失費ヲ減ジ勞カヲ省キシナルベシ然レ氏吾ノ寡費寡勞ノ法ニ拠ラズ自ラ一法ヲ設ケシ者ハ抑モ故アリ云々

造幣及ビ輸出ニ拠レバ千八百六十七年六十八年六十九年七十年ノ本國金銀産出左ノ如シ

年次	造幣高	輸出高	合計
一八六七	二四、一二六、〇二三	三四、六九五、八二六	五八、八二一、八四九
一八六八	一九、四三三、三三九	三一、三八九、八三五	五〇、八二二、一七四
一八六九	一九、四六四、三四六	二六、四三〇、二九九	四五、八九四、六四五
一八七〇	二三、六〇三、六五〇	二八、七七二、二九九	五一、七七四、九四九

人右ノ計表ヲ以テ我邦ノ産出高ノ真況ヲ表スル者ト看做サント欲スレバ固リ其意ニ任ズベシト虽レ氏吾ニ於テハ決シテ之ヲ認メテ真正トナシ能ハザルナリ吾ガ既ニ掲ゲタル如ク造幣局

ハ決シテ造幣シタル本國金銀ノ精算ヲ報告レ得ベキ者ニアラズ(或ハ造幣局長ノ報告中金銀出高ニ付テハ充分ニ精密ナリト云フト虽凡吾ハ之ヲ取ラズ)且輸出高ノ精密ヲ欠クガ如キハ最モ見易キノ理ナリ吾統計寮ヨリ此件ニ付内報ヲ得且自ラ輸出高ヲ計算スル實際ヲ檢閲シテ此説ヲ為スノミナラズ千八百六十七年十一月統計局長アレキサントルマハノ年報ヲ見ルモ我が説ノ無根ニ非ザルヲ知ル此年報ニ曰ク律法ニ於テ統計ヲ為スニ唯船上輸出ヲ綜紀スルヲ要スルノミニシテ陸上輸出ヲ計算セズ千八百六十七年六月三十日ニ終リタル會計週年中カナダニ陸輸セル金銀ノミニテモ六百二十一萬千七百五十二弗ナリ此金銀ハ大抵貨幣ナルベシト虽凡地金モ亦必ズ其中ニ在ルベシ且右高ハカナダノ簿記ニ拠レル者ニシテ我邦ニテハ絶テ記録ナレサレバ他ノ諸英領ヘ陸輸シタル者ハ此高ノ中ニ

在ラズ又メキシコトハ大ニ貿易ヲ行フヲ以テ金銀ノ輸出入アルベシト虽凡其輸出ノ記録ナレト統計局長又曰ク律法ニ於テ海關吏ハ外國ニ航スル船ヨリ完全ナル船貨目錄ヲ收セザルバ之ニ出帆免狀ヲ与フルコトヲ禁スト虽凡船舶ノ船貨目錄ヲ出サズレテ出帆免狀ヲ受ケ其後出帆スルヲ罰スル罰則ナレシは大ニ欠典ナリ我邦ノ輸出報告ト我邦ト貿易スル諸國ノ輸入報告トヲ比較シ我が諸大港ノ輸出船貨目錄ヲ明細檢閲スレバ輸出ノ實情ヲ失フコトヲ知ルベシト英吉利海關委員亦此事ヲ論ジタリ曰ク輸出人出帆免狀ヲ受ケ其貨物ヲ船積シ其船積センコトヲ包匿セント欲シ其奸謀ヲ仕遂グル者少ラズト吾此七年间ヲ觀ルニ此奸謀ヲ行フ者他ノ商品ニ比スレバ金銀ノ輸出ニ於テ最モ多シ蓋此七年间ハ其前ニ比スレバ金銀ノ投機貿易最モ劇ク其價大ニ高低アリ故ニ輸出

金銀ノ真額ヲ包蔵スルノ策ヲ為ス者最モ多シ然ルニ此ヲ制禁  
スルノ法大ニ乏シ遂ニワール街ニ於テ専ラ密輸出ノ街説アル  
ニ至レリ

又一ニハ投機貿易ニ於テ金銀ノ輸出ヲ誇言スルヲ要スルヲア  
リ故ニ輸出人ノ告クル所實ニ過グルコアリ但此事ハ地金ヲ密  
出スルニ比スレバ頗ル行ヒ難シ之ヲ行フニハ唯公然偽誓ヲ為  
スノ一法アルノミ云々

吾既ニ他ニ考証トナスベキ統計ヲ得ルコト能ハズ又前ニ掲ゲタ  
ル條ニ由テ英吉利統計ハ我邦ノ統計ダニモ若カザルコト知リ  
乃チ此ノ如キ統計ハ精密ナラザルノミナラズ縱令之ヲ分析シ  
之ヲ他ニ比較スルトモ猶其真正ヲ得ルコト能ハザルコト知レリ  
然レモ海関吏ツレテ注意シテ報告ヲ出サシムルノ手段ヲ為サ  
バハハコト云々

35

吾既ニ本國ノ造幣及ビ輸出ニ由テ金銀ノ産出高ヲ知ント欲ス  
ルモ造幣局及ビ海関ノ報告ハ粗漏ニシテ信ズルニ足ラザルコ  
ト條説シタリ今更ニ一歩ヲ進メテ縱令ヘ右ノ報告ヲシテ精覈  
ナラシムルトモ此ニ由テ全國ノ毎年産出高ヲ定ムベカラザル  
コトヲ略説セントス上ニ抄出シタル「アルタ、カリホルニヤ」(蓋新  
聞ノ名)ノ社説(此篇鈔録ナリ故ニ上ニ此章ヲ見ズ)ヲ以テ歳末ニ  
至リ猶商人ノ手ニ有ル所ノ地金ハ造幣局及ビ税関ノ統計中ニ  
有ラザルコトヲ知ルベシ然レモ此一事ハ計筭ニ入ラザル他ノ諸  
件ニ比スレバ唯小事ノミ  
第一ニハ輸出セル鑛中及ビ銅中ニ在ル所ノ金銀ハ右ノ統計ニ  
入ラザルナリ吾親ク之ヲ聞ケリ千八百七十年中右ノ如クニシ  
テ輸出セル金銀百万弗以上ニ至レリト然ルニ海関ノ商品報告  
ニモ金銀報告ニモ之ヲ登記セズ蓋シ世人ハ密出シタル金銀ハ

大蔵省

毫モ世界ノ相場ニ関係セザルト思ヘルナリ(「アルタカリホニ  
ヤ」ノ語ヲ用エ)吾ノ職務タルマ固リ世界ノ相場ニ関スベキニア  
ラズ唯亞米利加産業ノ成敗ニ係ル所ナリト虽氏此件ノ如キハ  
之ヲ記スルモ贅言ニ非ルベシ

第二ハ砂金<sup>ゴールド</sup>ヲ以テ通用貨ニ代用スル際之ヲ失フ者毎年少ラズ  
此慣習ハ既ニ多クハ廢シ唯砂金地方ニ於テ之ヲ行フノミナリ  
ト虽氏毎年流通スル者猶数百万弗アリ千八百七十年其亡夫ス  
ル者ヲ概算スルニ凡ソ十萬弗ニ至レリ

第三ハ西部ノ諸州諸屬地ニ於テ砂金ヲ以テ玉ヲ製スルナリ此  
玉多ク合製物ナク僅ニ玉工ノ合製セシ者ニ止ルモンタナナル  
ヘレナ府ニ製玉所五個アリ皆多ク工人ヲ用ヒ土産ノ金ヲ以テ  
玉ヲ製ス右製玉ニ費ス金ノ外諸鑛業社ニ於テ見本ノ為ニ毎年  
貯ヘ置ク所ノ金甚ダ多シ或鑛山ニ於テ其監督ノ意見ヲ以テ見

本ヲ賣却スル法ヲ設ケシニ其代價實ニ多ク通常人ノ想像外ナ  
リキ毎年製玉ニ費セル者ト見本ニ貯フル者トヲ算スレバ四十  
萬弗ナリト云フトモ蓋シ過言ニアラザルナリ

右ノ諸件ニ由テ費ス所ノ金此ノ如ク多シト虽氏之ヲ全國ノ製  
玉人時計工、金筆工、眼鏡工、入齒師、銀鍍工、等ノ用エル所ニ比スレ  
ハ實ニ僅々ナルノミ夫ノ造幣高ト輸出高トニ由テ本邦ノ金銀  
産出高ヲ算定スベシト思ヘル人ハ産出スル所ノ金銀ハ盡ク造  
幣若クハ輸出ヲ經ルト想ヒ諸製造ニ用エル所ノ金銀ハ既ニ造  
幣ノ部ニ於テ算シタリト做スナルベシサレバ其説ハ甚ダ簡便  
ナリト虽氏其實ヲ失スルヤ又極レリ第一ニ製玉人ハ概シテ毫  
モ貨幣ヲ鑄シ用ユルナシ一般ニ造幣局ヨリ地金ヲ買フカ然  
ラザレバ其用ユル所ニ從テ適宜ニ合製シタル金棒、金板、金線、金  
箔、等ヲ用フルナリ而シテ此諸品ハ夫々専門工人アリテ之ヲ製

セルナリ

ニユーヨークニ製金場数戸アリ其造幣局及び監定場ヨリ純地  
金ヲ買フ所多シト虽氏金ヲ合製スル前自家ニ於テ先之ヲ精製  
レハイシ雜物ヲ分ツスルナリ其監定場ニ托タル所ノ者ハ外  
國貨幣、磨損貨幣、破損貨幣、雜地、金砂、金等ナリ又其自家ニテ精製  
スル所ノ金ハ幾許ナルヤソハ知リ難シ一般統計表中製造品ノ  
部ヲ刊行スルニ至レバ考証トナスニ足ルコトアラシ目下統計局  
ノ調査未ダ了局ニ属セズ故ニ考証トナシ難キナリ  
製玉工等ノ費ス所ノ高ニ付一定ナル能ハズ右諸工ノ告グル所  
ニ拠ルニ或ハ毎年九百万弗許ト云ヒ或ハ千三百万許ト云ヘリ

遠附録

千八百七十六年十二月三十日サンフランシスコニ於テ

アレキサンドルデルマル

合衆國貨幣委員ヘ

問ハアレキサンドルデルマルナリ

答ハサンフランシスコノゼームス、パール、ロベルトフン氏

ナリ

一 同 足下ノ産業ト住所ヲ告ゲヨ 答 不動産ニシテサンフランシス

コニ住ス

二 同 足下此地ニ住スルコト幾多歳ナリヤ 答 三年弱

三 同 足下嘗テ太平洋沿海ノ金銀産出如何ヲ講究セシコトアリヤ 答

然リ

四 同 足下千八百七十六年英吉利ノ銀價下落原因調査委員ノ報告

合衆國鑛山統計委員ノ報告ウエルス、ハルゴ通運會社監督ワレ

ンテン氏ノ報告ヲ見シヤ 答 然リ

五 問 足下ハ右ノ諸調査員ノ行ヒシ所ノ調査法ヲ以テ正算ヲ得ベシトナスヤ 答 余ハ然リトナサス

六 問 足下右諸員ノ算定セル此沿海ノ金産高ヲ以テ真正シトナスカ或ハ殆ト正シトナスカ 答 余専ラ金産ノ事ヲ講究セシニアラズ

七 問 然ラハ銀ニ付テハ如何足下銀産ノ事ヲ調査セシト有リヤ 答 然リ

八 問 足下諸員ノ計算ヲ以テ正シトナスカ 答 吾諸員ノ計算皆實ニ過ギタリトナス

九 問 足下右ノ計算ニ據ラズシテ自ラ別ニ計算ヲ行ヒシト有リヤ 答 然リ

十 問 願クハ足下ノ行ヘル所ノ計算法ヲ聽カン 答 此府ノ諸銀行ハ諸鑛坑ノ代理人ナリ故ニ余ハ諸銀行ニ就テ諸鑛坑ノ銀産高ヲ

知レリ

一 問 此沿海諸坑ハ皆此府ノ銀行ヲ以テ代理人ト為スカ 答 コムストツク脉諸坑及ヒ其他教多ノ鑛坑ハ皆此府ノ銀行ヲ以テ代

理人ト為スト 虽氏所謂太平洋沿海ノ諸坑皆然リトハ言ヒ難シ

二 問 足下ハ目今銀ヲ出ス諸坑ノ代理タル各銀行ニ就テ質問セリマ 答 然リ但重立タル諸坑ノ代理タル各銀行ニ就テ質問セ

三 問 足下ノ行ヘル所ノ方法ヲ以テ足下ハ此沿海<sup>海</sup>銀産ノ大概ヲ得タリト為スカ 答 然リ

四 問 足下ノ得タル所ノ概算ト實際ノ産出高トニ於テ幾許ノ差アリト為スカ 答 過不及トモ二百万ニ出ザルベシ

五 問 足下誤算アルモ二百万ノ外ニ出ズト為スカ 答 然リ今年ニ付テハ二百万以外ニ出ル丁無ルベシ余ハ千八百七十六年ノ全

大蔵省

合衆國ノ銀産ヲ以テ二千七百万金弗乃至三千百万金弗ト概算  
セリ但金弗ト銀弗ノ年中平均相場ヲ以テ之ヲ算シ銀弗ニ一割  
ニ分ノ割引アリト看做シタリ故ニ亜米利加銀弗ヲ以テ算スレ  
バ三千零七十五万乃至三千五百二十五万トナルナリ

向十足下右ノ計算ヲ為スニ付何銀行ニ就テ質問セシヤ答唯三  
銀行ノミ曰ク子ヴダ銀行曰クカルホルニヤ銀行曰クアングロ、  
カリホルニヤ銀行是ナリ子ヴダ及ゴカリホルニヤノ重立ナタ  
ル諸坑ハ皆此三銀行ヲシテ代理セシムルナリ又エータ等ノ如  
キ下等鑛坑ノ在ル諸州ニ付ハウエルス、ハルゴ通運會社ノ報告ヲ  
以テ證據トナレコロラドニ付ハリンデルマン氏ノ報告ニ拠レ  
リ  
同十子ヴダ銀行カリホルニヤ銀行アングロ、カリホルニヤ銀行  
ヨリ足下ニ差出セシ計算ハ此三銀行ノ金庫ヲ出入セル金銀ノ

39

高ヲ以テ定メタル者ナルカ又ハ三銀行ノ代理スル諸坑ヨリノ  
報告ニ拠テ定メタルカ答三銀行諸坑ノ産出高ヲ概算シ更ニ其  
金庫ヲ經過スル所ノ地金ノ高ニ由テ之ヲ檢校セシナリ  
同十サレバ足下ハ此銀行ニ就テ調査スレバ本邦銀出高ノ概算  
ヲ得ベシト為スカ答然リ而シテ東部ノ銀行ニテオマハ其外東  
部諸州ニ産スル銀ヲ取扱フ者ニ就テ其高ヲ得之ヲ上ノ三銀行  
ノ計算ニ加フレバ完全ノ計算ヲ得ベシ且東部ニ於テ産スル銀  
ヲ取扱フ銀行ハ其数多ラザルベシ  
同十足下此方法ヲ以テ今年以前某年ノ合衆國銀産高ヲ計算セ  
シトアリヤ答前年吾未嘗テ此方法ヲ用ヒシトナシ之ヲ用ヒシ  
ハ今年ヲ以テ初トス余ガ此法ヲ用ヒシ所以ハ此迄銀産ニ付計  
算セシ高ハ多シト虽此高ノ實際世界ノ市場ニ出デタルトテ  
見ザレバナリ(計算セル高ハ多シト虽此實際世間ニ出デタル高

大  
算

ハカシ余が此事ヲ發見セルハ千八百七十六年ヘクトル、ヘー氏  
カ英吉利銀産調査委員ニ答ヘタル第二十六第四十七回ヲ見シ  
ニ由テナリ

問 足下ハヘクトル、ヘー氏ノ証ニ由ラズシテ自ラ從來計策ノ過  
實ナルコトヲ調査セシコアリヤ答 余合衆國ノ輸出入官報ヲ閱ス  
ルニ其高大ニ諸氏ノ計策セル本邦銀出高ト差アリ是其一証ナ  
リ

一 問 前答ニ於テ足下ノ謂フ所ノ諸氏トハ余ガ觀ル所ヲ以テス  
レバ造幣局長鑛山統計委員及ビワレンテン氏ニ非ズヤ答 然リ

二 問 足下右ノ諸氏ノ正否ヲ檢校セント欲シテ合衆國地金輸出  
官報ヲ檢閲スルニ當テ又内國ニ於テ造幣及ビ諸工ニ費用スル  
所ノ地金ヲ以テ其計策ニ加ヘシヤ答 然リ

三 問 本國ニ於テ造幣及ビ諸工ニ費シタル銀タ高ニ付足下ノ計

策ト造幣局長ノ計策ト差アリヤ答 否ナ

四 問 然ル寸ハ足下ノ全國銀産計策ト造幣局長ノ者ト差アル所  
以ハ專ラ輸出入官報ノ誤謬ニ在ルガ如シ答 然リ

五 問 而シテ右誤謬ヲ證スルニ世界市場ニ意外ニ銀ノ乏キヲ以  
テスルカ答 然リ

六 問 此事ヲバ然リトナシ而シテ足下ハ去四五年間ノ銀産計策  
ハ概シテ實ニ過グル者ト為スカ答 吾断然其過實ヲ保ス

七 問 足下ハ千八百七十三年以來金銀ノ價位ニ大差位ヲ生セン  
原因ノ一部ヲ以テ合衆國銀産出計策ノ過實ニ由ルト為スカ答  
然リ

八 問 足下右ノ原因ノ外別ニ千八百七十三年以來銀價下落ノ原  
因ヲ知ルカ答 曰ク千八百七十三年日耳曼貨幣條例曰ク「ラテン  
普通貨幣法ヲ設ケテ各州ノ銀貨製造ヲ制限セシ」此條亞米利



加ニ於テ各州ニ銀貨製造ノ制限ヲ置キシトナルベシ曰ク印度ニ於テ銀ノ輸入ノ減ゼシト

同廿 是下銀價ノ斯ク下落セシ割合ノ幾分ヲ以テ合衆國銀産統計ノ過實ナルニ由レリトナスカ答 余其幾分ナルヲ明言シ難シ

但頗ル多分ナルベシ  
同三 足下合衆國ノ銀産統計若シ斯ク實ニ過ギサレバ金銀ノ價位ノ差此ノ如ク甚キニ至ラズト為スカ答 余ハ此ノ如キニ至ラズト思フ

同三 然ラバ足下千八百七十六年ノ上半季中銀價大ニ下落シ金價大ニ騰起セシヲ以テ合衆國ノ銀産統計ノ過實ナルニ由レルトナスカ答 今年ノ夏銀價非常ニ下落セシハ多分右統計ノ過實ナルニ帰セリト為サバルヲ得ズ去ル七月銀價下落ノ極ニ於テハ二割三分引弱ナリシニ尔来大ニ騰起シ昨日聞ク所ニ拠レバ

三分七厘五毛引ヲ以テモ所有人ハ之ヲ賣ルコトヲ拒ムニ至レリ而シテ鑛坑ノ事情ヲ問ヘバ通年ノ平均ニ異ナルコトアルヲ聞カズ唯合衆國ニ於テ非常ノ大額ヲ産スルト云フ妄信ノ漸ク世人ノ頭腦中ヨリ消散シタルノ一事アルノミ 此妄信ニ依テ斯ク大下落ヲ生ジタルナリ

同三十 是下リンデルマン氏レモント氏ワレンティン氏ノ計策ヲ以テ實ニ過ギタリトナス專ラ既往産出ノ計策ニ関ルヤ又ハ兼テ将来産出ノ見込ニ係ルヤ答 余專ラ既往産出ノ計策ヲ云フ然レドリンデルマン氏ニ付テハ其将来ノ見込ヲ差セテ之ヲ云フ

同三十 是下ノ目レテ千八百七十六年ノ銀價下落ノ原因ノ最モ大ナル者ヲ細説スベシ答 リンデルマン氏ノ既往及ビ将来産出ノ過實計策ヲ以テ此原因ノ最モ大ナル者トナスリンデルマン

氏コムストック脈ノ将来銀出高ヲ二千七百五十万銀弗ト算シ  
タリ然ルニ今年該脈ノ産出千八百万金弗ニ至ラズ又将来ニ付  
世説皆曰ク現今ノ徴度ヲ以テ論ズルニ此脈ノ産出ハ尔来増加  
ノ目的ナシト實際ニ於テウォルチニマ及ビカリホルニヤノ両合  
同坑此両三月ノ出ス所其前月ニ比スレバ大ニ減ジタリ是或ハ  
一時ノ原因ニ由ルト虽氏他ノ諸坑モ減少ノ勢アリ

四三十足下コムストック脈ヲ以テ其産出ノ頂點ニ達シタリト  
為スカ答然リ且此府諸銀行亦此説ヲ保證ス

五三十今既ニ合衆國銀産ノ過算ニ由テ金銀價ノ差異ヲ生ゼル  
大概ヲ討論シタリ更ニ足下ノ方法ニ由テ得タル所ノ決算ヲ聽  
カント欲ス足下今年合衆國銀産表ヲ製セシヤ若此表アラバ下  
負願クバ之ヲ閲セン答余ガ計算セシ所既ニ前ニ告ゲシ所ノ如  
シ其他別ニ計算表ヲ有セズ

六三十足下ノ告ゲシ所ニ拠レバ足下ノ計算ハ今年合衆國ノ銀  
出高ハ中ヲ執リテ三千三百万ト為スガ如シ答然リ

七三十足下ノ計算ニ於テ用ユル所ノ一弗ノ價如何ン答一弗ニ  
付純銀三百七十一トトリ、ゲレシ四分ノ一ナリ即造幣局精製

場監定場等ニ於テ用ユル所ニシテ銀地金ニ印スルニ之ヲ用エ  
此弗ヲ科語ニテ古弗ト云フ千八百七十三年此弗ヲ廢シテ貨幣

ト認メズト虽氏造幣局其他諸所ニ於テ此弗ノ割合ヲ以テ銀地  
金ニ印スルナリ

八三十千八百七十五年リンゲルマン氏コムストック脈将来年産  
ヲ以テ二千七百五十万弗ト為シ足下ハ之ヲ千九百五十万銀弗  
ト為ス故ニ足下ノ計算トリンゲルマン氏ノ計算ト凡ソ八百万  
銀弗ナリ答余ガ計算ハ千九百五十万弗ニシテリンゲルマン氏  
ノ計算ハ二千七百五十万弗ナリサレバ殆下四割ノ差アリリン

ドルマン氏ノ計策多キト四割ナリ故ニ余之ヲ以テ過多トナス  
九三ノリンドルマンガ計策ヲ行ヒシ以後發明シタル事アリテ  
是下ノ計策ニ便リセシ者アリヤ答否之ナシ余ガ計策ヲ為セシ  
ハ去ル八月ニ在リ

同四 八月ニ為レタル計策ニシテ殆ド正策ナリトナスノ証アリ  
ヤ答 今年八月二十九日「ロンドン、タイムズ」新聞ニサジフランシ  
スコ八月九日ト記シタル一通信ヲ掲ケタリ其中ニ曰クミツツ  
ーリー以西ノ諸州諸屬地ノ銀産高ハ二千五百万弗乃至三千万  
弗ナリトサレバ八月ト魚氏既ニ此計策ノ根拠ト為スベキ者ア  
ルコト知ルベシ此計策ハ子ワダヲ以テ二千万弗ト為セシニ均  
シ然ルニリンドルマン氏ハ唯ユムストツク脉ノミヲ以テ二千  
七百万弗ト為シタリ

同四 千八百七十三年ノ決議ヲ以テ亜米利加銀弗ヲ廢シ銀貨

製造ノ制限ヲ立テシニ由テ尔来合衆國中銀貨ノ流通殆ド止ミ  
其流通スル者ハ唯附屬貨ノミ然ルニリンドルマン氏ガ合衆國  
銀産過策ニ由テ國ノ殷富ヲ害シ民ノ利害ニ関セントハ何ノ故  
ゾヤ答 此ニ由テ非常ノ低價ヲ以テ銀ヲ賣リ遂ニ貿易上ニ大関  
係ヲ生レ國民之ガ為ニ困ムナリ

同四 是下ノ論ズル所專ラ概畧ニ係ル足下能ク是下ノ觀察セ  
ル所ヨリ例ヲ揚ゲ以テ是下ノ説ノ正キヲ證スルヤ答 實際貿易  
ノ一例ヲ揚ケンニ今年七月銀價最下ノ際一支那銀行ノ代理亜  
墨利加ニ於テ銀ヲ買ヒ上海銀價ノ騰貴ノ際之ヲ賣レリ此時倫  
敦ノ兩替ノ交換ニ由テ支那ノ諸銀行ニ於テ銀ノ乏キト先例ナ  
カリキ其賣買ノ委細ハ純九割九分八厘<sup>銀</sup>四十万「<sup>銀</sup>」ヲ二割三  
分引ト為ス寸ハ即テ英本位「<sup>銀</sup>」ニ付四十四「<sup>銀</sup>」千分ノ九  
ニシテ金弗ニテ三十九万七千四百十三弗ナリ電信ヲ以テ倫敦

七  
蔵  
録

ニ於テ一帛ニ付四十八「ペンス」即チ八万零七百二十四磅十「シル  
リング」ニテ仕拂セリ扱上海ニ於テ右ノ銀ハ上海兩三十六万八  
千八百六十七、六八トナレリ一兩ニ付五「シルリング」九「ペンス」四  
分ノ三ノ割合ヲ以テ倫敦為替六ヶ月限證券ヲ買ヘリ此英貨十  
万零七千二百〇二磅三「シルリング」六「ペンス」ナリ此中ヨリ船賃  
保険料、倫敦ニ於テノ利息トシテ二千磅ヲ引キ去ルモ此一貿易  
ニテ得タル所ノ利益ハ二万四千四百七十八磅ニシテ殆ド三割  
ニ當レリ〇此例ヲ以テ合衆國人ノ一貿易ヲ以テ大金ヲ失ヘル  
ヲ知ルベシ尤モ此例ハ銀價最下ノ時ニ在リト雖凡種々ノ相場  
ノ際此ニ均キ貿易アリテ我が邦ノ損失ヲ受ケシヤ蓋枚拳スル  
ニ違アラザルナリ

ニ付足下ノ意死ラ聴カントス足下ハ千八百七十三年以前數十  
ニ間四十 暫ク此點ヲ舍キテ金銀ノ斯ク久ク價位ヲ異ニスル原因  
年間金銀ノ交換分量ハ如何ント為スカ答 世界一般銀十五半ニ  
付金一ノ割合ナリキ

四 間四十 千八百七十三年以来此割合ハ如何が変セシヤ答 銀十九  
三分ノ二ト金一ノ割合ニ下落セリ昨日ニ至リ銀所持人初テ十  
六五分ノ三ト一トノ交換ヲ拒ムヲ聞ケリ  
五 間四十 斯ク金銀交換分量ニ大差異ヲ生ゼシハ銀ノ下落ニ由ル  
カ金ノ騰起ニ由ルカ將タ此兩原因ニ由ルカ答 余ハ兩原因ニ由  
ルト為ス  
六 間四十 銀ノ下落ニ由レルノ證アリヤ答 是余ガ前ニ陳説セル所  
ニシテ亞米利加銀産ノ過美、日耳曼ノ貨幣條例ヲテシ普通貨幣  
法ニ由テ銀貸自由製造ノ廢止數年来印度ニ於テ銀輸入ノ減少  
是ナリ  
七 間四十 金價騰起ニ由レル證アリヤ答 四證アリ毎年全世界ノ金

産二十年前ハ約ニ億弗ナリシガ現今ハ減ジテ一億弗未滿トナ  
レリ是ニ証ナリ千八百七十三年日耳曼貨幣條例ヲ定メシヨリ  
其政府ハ常ニ倫敦ニ於テ金ヲ買フニ至レリ是ニ証ナリ世界一  
般ニ物品ノ金價大ニ下落セリ(金ニテ物ヲ買フ寸ハ物ノ價大ニ  
前ヨリ廉ナリ)是ニ証ナリ然ルニ世界一般物品ノ銀價下落アル  
ヲ聞カズ(銀ヲ以テ物ヲ買フ寸ハ其價前ニ異ナル)無シ是四證  
ナリ

同四十足下能ク千八百七十三年以來物品ノ金價大ニ下落セル  
証ヲ示ス<sup>1</sup>ヲ得ルカ答金價(此所ニテハ金ノ價ニアラズ金ニ  
ヲ買フ寸ノ物ノ價ナリ)ノ一般ニ下落セシ<sup>2</sup>ハ千八百七十六年  
九月十六日全十月二十八日ノ「ロンドン、イコモミス」新聞ニ掲  
ゲタル物價表ヲ以テ證スベシ又銀價(金價ト同様ニ解ス)ノ不易  
ナル<sup>3</sup>ハ印度政府ノ會計録事ニ引証シタル者ヲ以テ証トナ

ナスベシ此證ヲバ千八百七十六年十月二十八日ノ「ロンドン、イ  
コモミス」新聞、同二十四日ノ「ロンドン、タイムズ」新聞、同七日ノ  
「ホール、モール、カゼット」新聞、同年九月六日「ロンドン、タイムズ」ノ  
寄書印度麥輸出論、同年十月「イテンボルグレビウ」新誌ノ五百六  
七「ペーヂ」ニ於テ皆之ヲ取レリ

同四十年來金銀ノ一定相場ニ生ジタル大差異ノ幾分ヲ以テ  
金ノ騰起ニ由レリト為シ幾分ヲ以テ銀ノ下落ニ由レリト為ス  
カ答余此問ニ決答スル<sup>4</sup>能ハズ然レモ金ノ騰起ノ此差異ヲ生  
ゼシ<sup>5</sup>銀ノ下落ニ比スレバ頗ル多キガ如シ蓋銀ノ六十「ペンス」  
ヨリ下落シテ五十二「ペンス」半ニ至リシ迄ハ專テ金ノ騰起ニ原  
因セルガ如シ後五十二「ペンス」半ヨリ四十五「ペンス」ニ至リシハ  
全ク銀ノ下落ニ由レルガ如シ今斯ク倫敦ニ於テ銀一「フランス」ニ  
付金「ペンス」幾許ヲ以テ算フルノ方法ヲ用ヒシハ唯世間ノ慣習

大  
幾  
自

ニ由ルナリ金ヲ以テ銀ノ價ヲ策スルハ銀ヲ以テ金ヲ策スルニ  
比スレバ精覈ナリト思ヘルニハアラズ

同五今足下ノ開示スル所ノ近來金銀大差異ノ諸原因中永久其  
關係ヲ為スベキ者ハ獨リ全世界金産ノ減少ナリト為スカ足下  
ノ意蓋此ニ在リ答然リ

一 同五十 他ノ原因即日耳曼ニテ銀ヲ賣テ金ヲ買フ事合衆國銀産  
ノ過策印度ニテ銀輸入ノ減少ノ如キ足下ノ見ル所ニ於テ唯暫  
時ノ事タルガ如シ如何ン答然リ

二 同五十 サレバ永續スベキ原因唯一ノミ然ル寸ハ將來金ノ價ハ  
愈々騰起シ銀ノ價ハ愈々下落ヲ止ラザル者ト為スカ答然リ

十三 同五 金ハ騰リ銀ハ下リテ止マザル寸ハ足下此ヲ以テ世界ノ幸  
福ト為スカ將タ然ラザルカ答余ハ之ヲ以テ不幸ト為ス如何ト  
ナレバ物價此ニ由テ常ニ一定セズ金銀貨幣此ニ由テ常ニ迭ニ

昇降スベシ

四 同五十 足下金銀貨幣ノ迭ニ昇降スルノ恐アリト為ス而シテ足  
下ノ此ヲ豫言スルハ金産ハ愈々減ズル者ト看做スニ由ルカ答  
然リ

五 同五十 敢テ問フ貿易諸國ニ於テ如何ナル方法ヲ用エル寸ハ斯  
ク金ノ騰起シテ銀及ビ諸物品ノ下落スルヲ遏ムベシト為スカ  
答金銀本位法ヲ設ケ因テ金銀貨幣ニ定格ヲ設ケ之ヲシテ駢立  
流通セシムル寸ハ稍其昇降ヲ防グベシ此法ヲ複本位法ト云フ  
但斯クスル寸ハ又自由造幣ヲ行フベシ

六 同五十 足下此ヲ以テ合衆國ノ施行スベキ最良法ト為スカ答余  
ハ断乎トシテ然リト為ス

七 同五十 足下既ニ此法ヲ以テ合衆國ニ行フベキ最良法トナス何  
ゾ之ヲ英吉利ニ用ヒテ不利ナルノ理アラニヤ答余ハ亦利アリ

トナス

同八五 是下ハ英吉利ヲ以テ千八百十六年其複本位法ヲ廢セシニ  
由テ害ヲ蒙リタルト為スカ答然リ

同五十 前年ノ調査員ノ中英吉利ニ於テ單ニ金ヲ以テ本位ト定  
メ固ク之ヲ保守スルニ由テ大ニ其貿易ノ繁榮ヲ致セリト説ク  
者アリ是下亦然リト為スカ答否ナ

同六十 是下何物ヲ以テ英吉利ノ貿易繁盛ノ實因ト為スカ答余其  
貿易上ノ繁盛ニ付テハ決シテ其單本位ニ由レリト為サズ

同六十 然ラバ是下ノ認メテ英吉利貿易繁盛ノ實因ト為ス者ハ  
何物ゾヤ答天然石炭及ビ鉄ニ富ルーナリ諸大殖民地ニナリ其  
民群ヲ為シテ其殖民地ニ移住スル三十ナリ印度支那及ビ東洋多  
嶋海ニ於テ威權ヲ占ムル四十ナリ其久ク制度及ビ貿易ノ自由ノ  
沢ニ浴スル五十ナリ

同六十 前年ノ調査員ノ中英吉利ニ於テ單本位ヲ用ユルニ由テ  
遂ニ世界ノ中心銀行ト為レリト論スル者アリ是下之ヲ是ト為  
スカ答余ハ此論ヲ取ラズ

同六十 然ラバ是下英吉利ノ斯ク金權ヲ占メタルヲ以テ何ノ原  
因ニ由レリトナスカ答余ハ其原因ヲ以テ英吉利ノ貿易ノ全世  
界ニ周到スル事他ノ都府ニ為換ヲ組々ニ難キ寸ト虽氏倫敦為  
替ハ容易ニ組ムトヲ得ル事トニ歸セザルヲ得ス夫レ此ノ如レ  
故ニ合衆國人ノ印度及ビ支那ニ貿易スルカ如キ倫敦諸銀行ノ  
保証信書ヲ得ザレバ行フトヲ得ズ此諸銀行ハ引出手形ヲ受ケ  
取ルナリ手形満期ノ頃此銀行ニ向ケタル金額倫敦ニ達スルナ  
リ此ノ如キ者唯合衆國ノ貿易ニ止ラス各國ノ外國貿易皆倫敦  
銀行ノ手ヲ經ザルハ無シ余ハ此事ヲ以テ英吉利諸島ノ非常殷  
富ニ由レリトナス而シテ倫敦ヲ以テ其殷富ノ中心ト為ス故ニ

倫敦ハ世界ノ貨幣ノ權ヲ掌握スルニ至レルナリ

四 問六十 然ラバ英吉利其旧時ノ慣習ヲ守リテ金銀複本位ヲ棄テ  
ザルトモ其貿易財利今日ノ如ク進ムト得ベシヤ 答 余ヲ以テ  
觀レバ唯今日ノ如ク進歩セシノミナラズ物價ノ動搖少キヲ以  
テ或ハ更ニ一歩ヲ進メシナラン蓋物價ノ動搖少キトハ貿易上  
ニ於テ大利益ナリ本位貨幣ノ變易ニ由テ物價謾ニ浮沈スルハ  
實ニ商家ノ醜毒ナリ若複本位ナル寸ハ商賈ノ貨幣投機ニ溺ル  
ト單本位ニ比スレバ少キナリ

五 問六十 議算ヨリ調査ノ命ヲ受ケシ件々ノ中合衆國ニ於テ正金  
唯金ノミニ限ラズヲ以テ紙幣ニ交換スルト再行スルノ件  
アリ足下ハ此件ニ付講究セシトアリヤ 答 然リ余大ニ之ヲ講究  
セシコアリ

六 問六十 正金交換ニ付六方法數多アリト雖氏今一々其可否ヲ質

4

問スルトテ舍キ直ニ該交換ヲ再行スルニ付足下ノ持論ヲ以テ  
スレバ最モ少クトモ幾許ノ正金ヲ要スト為スカ 答 余ヲ以テ觀  
ルニ通貨紙幣及ビ銀行紙幣ノ全額四分ノ三ノ正金ヲ要スベシ  
七 問六十 足下ノ説ヲ以テスレバ今通貨紙幣及ビ銀行紙幣ノ合額  
七億弗ナルヲ以テ正金交換法ヲ再行スルニハ正金五億二千五  
百萬弗ヲ蓄積スルトテ要スルカ 答 此高ヨリ少キヲ得ズ或ハ多  
キヲ要スルナラン

八 問六十 理財史上ニ於テ足下ノ説ヲ証スベキ事實アリヤ 答 然リ  
千八百二十三年英吉利ニ於テ正金交換ヲ再行セシ寸ノ事佛蘭  
西銀行ニ於テ其現流通紙幣額ヨリ多額ノ正金ヲ以テスラ猶正  
金交換ヲ再行スルトテ危ントナス事是ナリ且英吉利諸島ノ紙  
幣額ト其金銀貨幣ノ總高トノ割合ノ如キ亦一證ト為スニ足ル  
九 問六十 足下英吉利ノ外ニ外國ニ於テ正金交換ヲ中止シ後之ヲ



再行セシ者アルヲ聽リヤ答之ヲ聞カズ

問七今五億二千五百萬弗ヲ備フルニアラザレバ正金交換ヲ行  
フベカラズトナス寸ハ如何ガ此大額ヲ得シカ答余其方法ヲ知  
ラス

一問七十足下ハ相應ノ年限中ニ此大額ノ金ヲ得ベシト為スカ答  
年限ニ由テハ必ズシモ之ヲ得ベカラザルニ非ルベシ

二問七十如何ナル年限ヲ以テ之ヲ行フベキヤ答之ニ答フルハ難  
シ未ダ他ニ之ニ類スル例アルヲ聞カズ然レモ余ヲ以テ觀ルニ

假令複本位法ヲ用フルモ十年ヲ閱ガレバ之ヲ行フコトヲ得ズ  
三問七十足下ハ正金交換ヲ行フニ金銀ヲ合用スルハ金ヲ單用ス  
ルニ比スレバ容易ナリト為スカ答必然ナリ若行フベクニハ其

因難ノ半ヲ減ゼン  
四問七十複本位ヲ以テ交換スル寸ハ本邦及ビ外國ニ於テ我カ紙

幣ヲ所持スル人民ニ不公平ヲ生ズルコトアリヤ答余ハ之ナシ  
ト為ス

千八百七十七年一月三日

ロベルトソン 再校

和 附録

千八百七十三年一月二日サンフランシスコニ於テ記ス

合衆國貨幣委員ヘ

問 ハアレキサンドル、ゲル、マルナリ

答 ハウエルス、ハルゴ通運會社總監督ウレンテンナリ

ゲル、マル、ウレンテン氏ニ向テ曰ク足下ノ編製セル合衆國金銀

産出概算表ハ精良ニシテ有用ナルヲ以テ合衆国貨幣委員余ニ  
命ジテ親ク足下ニ就テ其表ノ基ケル所ノ實證及ビ其説ヲ質問  
セシム足下若許ルサレバ余敢テ左ノ問題ヲ以テ足下ニ質サン  
トス  
一 問 足下幾多年前ヨリ金銀産出表ヲ製スルコトヲ初メタリヤ答余  
ノ之ヲ製セシハ千八百六十二年ヲ以テ初トス然レハ爾來毎年  
之ヲ製セシニ非ズ

二 問 千八百六十二年ニ製セル所ノ表ハ専ラ此年ニ係ル者ナルカ  
或ハ此年前数年ニ連関スルカ答唯此一年ニ係ル

三 問 サレバ足下ノ金銀産出ノ計算ヲ行ヒシモ亦千八百六十二年  
ヲ以テ初トナスカ答然リ

四 問 此年以後ニ至リ此年前ノ計算ヲ行ヒシコト有リシヤ答之ナ  
シ

今

五 問 千八百六十二年ノ足下ノ定課ト為シテ毎年此表ヲ製スルコ  
ト初メタル年トノ間ニ之ヲ製セザルノ年アリヤ答然リ

六 問 余ガ故ラニ此問ヲ為ス者ハ今考証書籍等ニ於テ足下ノ算定  
セル所ナリトテ數多年前ノ計算ヲ掲ゲ全世界ニ行ハル者ア  
ルヲ以テナリ今足下能ク真ニ足下ノ算セル者ト誣テ足下ノ算

定ニ係ルト為シタル者トテ區別センカ答千八百六十二年ニ至  
リ子ヅダノ産出ニ付世人大ニ之ニ注目スルニ當リ石産出ヲ調

査スル人ノ依頼ヲ受ケ此年ノ表ヲ著シタリ此年ヨリ千八百七  
十年ニ至ルマテ余ノ此表ヲ製セル唯二回ノミ而シテ之ヲ製セ

ルモ全ク私事ニ係リ一ハ我社ノ運送セシ概額ヲ知ラント欲シ  
テナリニハ全ク好事癖ニ由テナリ

七 問 而シテ此二回ノ表ハ何年ト何年トニ係ルヤ足下之ヲ記スル  
コト答千八百七十年ニ於テ余第一定期年報ヲ製セリ而シテ今

其草稿ヲ失ヘリ搜索至ラザル所ナシト虽氏遂ニ之ヲ得ズ然レ  
氏此年ノ産出高ハ余明ニ之ヲ暗記ス其總高五千四百萬弗ナリ  
向是金銀ノ合高ナリヤ答然リ千八百六十二年ノ銀産ハ大凡ソ  
三百万弗弱ニシテ二百九十萬何々弗ナリキ此時銀ノ産セシハ  
唯子ワグノミ千八百七十年ニ廿余ノ暗記スル所甚ダ明瞭ナリ  
金銀合五千四百萬弗ナリ

向サレバ足下ノ計筭ヲ問フニハ唯千八百七十一、七十二、七十三、  
七十四、七十五、七十六年ノ計筭ニ止ルベキヤ答然リ  
ト今足下ノ出セシ所ノ表ニ於テ此六年ノ毎年銀産高毎年金産  
高毎年鉛産高ヲ揭示ス而シテ此各高ハ毎年此各金屬ノ總高ナ  
リヤ答然リ

千八百七十六年十二月三十日サンフランシスコウエルスハ  
ル工會社總監ニ於テ

左ノ表ハ千八百七十一年ミソソリー河西諸州諸屬地及ビ英  
領ニロンビヤメキシコ西沿海ニ生ジタル金銀年表ノ寫ナリ  
其概總計ハ九千零八十七萬五千七百七十三弗ニシテ千八百七  
十五年ニ比スレバ九百九十八萬零六百三十六弗ヲ増加セリ  
此ノ如キ大額ハ我邦ノ史上ニ未タ見サル所ナリアリゾナカ  
リホルニヤコロラドナワグハ増加シ英領コロシビヤメキシ  
コモンタナオレゴンユータワシントンハ減少ス但モンタナ  
ノ減少セルト思ヒ前年ノ計筭實ニ過キタルニ由ルベシ  
余ヲ以テ觀ルニ其公告スル所ノ下等地金及ビ鑛物ヨリ二十  
五萬弗ヲ出スベシト見エズ  
著ク増加セル者ハ子ワグナリ他ノ諸州諸屬地ニ於テ未ダ此  
ノ如ク多ク金ヲ出ス者アラザルナリ其出ス所ノ金銀合額ハ  
全合衆國ノ産出額ノ九分ノ五ニ居ルアリゾナ及ビ新メキシ

市大額ノ金産ヲ公言スト虽氏千八百四十八年以來其合衆  
 國造幣局ニ委託スル所ノ總額二百七十一万弗ニ過ズ之ヲ平  
 均スレバ年々十萬弗ナルヲ以テ余ハ其公告スル所ヲ以テ概  
 ロナシト為サバ爾ヲ得ズ又千八百七十七年ノミッソーリー河  
 西ノ總産出高或ハ千八百七十六年ニ同キコアルベケレ氏今  
 日ヲ以テ觀レバ或ハ然ラザルガ如シエータチヴダカリホル  
 ニヤノ鉛産ハ殆ドミッソーリーイルリオノイスアイオワノ鉛  
 産ニ同ジ

千八百七十六年 ミッソーリー 河西諸州諸屬地金銀産出表

州名	通運ヲ經タル 砂金々地金	他ノ運送砂 金々地金	通運ヲ經タル 銀地金	諸運送鑛物 下等地金	合計
カリホルニア	一四六三五、九六三	一四六三、五九六	七九六、三〇八	一、七一九、九四〇	一八、六一五、八〇七
子ヴダ	二二〇、八〇三	二二九、八一四	四四、七二五、八〇二	四、三一二、〇七九	一、四九〇、七七一
オレゴン	九一七、二五七	五、六七〇			六二、三三二
ワシントン	五六、七〇二		二二〇、六九五	三五〇、〇〇〇	一、六七四、三六一
アイダホ	一八二、二二二	二二六、四四四	二七四、八二四	三五〇、〇〇〇	二、七七七、〇三二
モンタナ	一、九五六、五五三	一九五、六五五	七八、二六三	四、三三三、六八二	五、二〇七、五一九
ユータ	四七、七九五		二、七九六、六六一	一、三六四、一〇九	六、九九〇、六四七
コロラド	二八、二九、八七七		二、五九、二八一	一、八六、二二一	三、五〇、二九四
新メキシコ	七六、三九二		三、三六、五六四	六、七、九〇〇	一、二二、九九二
アリゾナ	一〇三、五二八		一、六二〇、六五六	五、四、二二二	二、二二三、七四八
メキシコ	五、一八八〇				一、四四、五六六
英領コロンビヤ	一、三一〇、五一五	一、三一、〇五一			
合計	二二、三九、五二五	二、二八、〇八九	五、八〇、八五四	一三、三八、六五四	九〇、八七、五七三

上ノ表ハ其製法及ビ書式都テ余ガ千八百七十年以來製  
 セル年表ニ同ジ此表ニ於テ銀中ノ金即雜地金中ノ金及  
 ビ下等地金中ノ鉛銅等ヲ區別セズ然ルニ今年中金銀ノ  
 相場変易甚キヲ以テ金銀産出ノ真況ヲ探ラント欲シ專

ラカヲ此區別ニ委子タリ其決算ハ今年コムストック脈ヨ  
 リ生ジタル高ヲ大畧三千七百万弗ト為シ其中金千七百  
 十二万五千弗アリ即千四割六部ニ當ル子ワグノ總高ノ  
 中三割五分ハ金ナリ而シテ名ケテ銀産ノ總高ト云フ者  
 ノ中千八百六十四万七千九百二十五弗ニシテ即三割一  
 分ハ金ナリ表ノ合計ハ畧筭ニシテ金四千四百三十二万  
 八千五百零一ト為シ銀四千五百六十六千六百七十二弗  
 ト為シ鉛銅五百〇四万ト合シテ九千〇八十七万五千百  
 七十三弗ト記シタルナリ

年次	産出總計	鉛ノ類	銀	金
一八八一	五八、二八四、〇〇〇	二、一〇〇、〇〇〇	二〇、二八六、〇〇〇	三五、八九八、〇〇〇
一八七二	六二、二三六、九五九	二、二五〇、〇〇〇	二〇、五二七、五〇〇	三九、四五九、四五九
一八七三	七、二二五、六九三	三、四四〇、〇〇〇	二八、三五二、一〇〇	四〇、四五六、四九三
一八七四	七、四四〇、〇四五	三、八〇〇、〇〇〇	三〇、四九八、〇〇〇	四〇、一〇三、〇四五
一八七五	八、〇八八、五五七	五、一〇〇、〇〇〇	三〇、〇四三、九一〇	四一、七四五、一四七
一八七六	九、〇八七、一七三	五、〇四〇、〇〇〇	四一、五〇六、六七二	四四、三二八、五〇一

上ノ方法ヲ以テ千八百七十一年ヨリ七十六年マデノ諸  
 金屬産出ノ割合ハ右ノ表ノ如シ

千八百七十一年ヨリ同七十六年マデ金銀鉛銅産出ノ割合  
 ヲ識別セント欲セシカ凡同七十一年ヨリノ如キ確証ト  
 ナスベキ事實ヲ得ザルヲ以テ暫ク之ヲ舍ケリ且合衆匡  
 官報ニ據レバ千八百七十年ノ金銀産出高六千六百弗ト  
 アリ余ガ算定セル同七十一年高ト虽凡唯五千六百千ハ  
 万四千弗ニ過ギズ余ノ目筭ニ拠レバ此七十一年ノ高ハ  
 七十年ノ高ニ比スレバサクトモ多キ丁四百萬弗ナラザ  
 ルヲ得ズ然ルニ官報ハ六千六百万トアリ其過實知ルベ  
 シ此ノ如キ過算ハ唯千八百七十年ノミニアラス同七十  
 一年ヨリ同七十六年マデノ計筭皆此過實ノ失ヲ犯セシ  
 丁知ルベシ又之ヲ前ニシテハ右七十年ヨリ洊テ千八百

四十八年マデ皆此過實ノ計業ヲ信ゼシヤ疑ナシ  
数種ノ公報ニ拠テ本邦ノ産出高ヲ定ルモ毎ニ過實ノ痕  
ヲ見ザルコト為シ今此例ヲ以テ世ニ唱フル所ノ全世界ノ  
金銀産出高ヲ推察スレバ亦皆實額ニ超過セルコト疑ヒナ  
シ  
世ノ信ズル全世界ノ金銀産出高倫敦ニ於テ一「タンス」  
幾「ペンス」ノ割合ヲ以テ銀價ノ最高低千八百四十九年ヨ  
リ千八百七十六年迄「ソーザンプトン」ヨリ印度支那等へ  
輸出セル高等ヲ掲ゲルモ無益ニアラザルベシ然ルニ下  
掲セズ日耳曼ニ於テ銀貨ヲ廢シテヨリ其政府ノ賣却セ  
ル所四千万弗ニ至レリ残ル所ノ額ハ八千万弗許アリ人  
口ヲ四千二百万トナシ各口平均私造貨幣千「マールク」ノ  
割合ヲ以テ之ヲ定メタリ然ルニ「レーチスタツグ」蓋新聞  
ノ名

ノ報道スル所ニ拠レバ私造貨幣ハ各口ニ付五「マールク」  
ノ増加即チ十「マールク」ヨリ十五「マールク」マデノ増加ア  
リト比之ニ對スルニハ殘額八千万弗ノ中僅ニ五千万ヲ  
存スルヲ要スルナリ  
今本位紙幣及ビ國立銀行紙幣ヲ廢シ銀ヲ以テ之ニ代フ  
ルニハ附屬貨幣ヲ合シテ一億弗ヲ用ユルモ合衆國ニ於  
テ過剩ナルコト無ルベシ  
今年印度及ビ支那等へノ輸出ノ多キハセボイノ乱及ビ  
印度鐵道建築以來殆ド無キ所ナリ千八百五十五年ヨリ  
同五十九年迄「ソーザンプトン」ノ輸出ハ四千七百五十万  
弗ニシテ英吉利合同王國ノ總輸出ハ七千万弗ニ至レリ  
銀ノ實際需求ト其實際産出トヲ比較スルモ千八百七十  
六年中銀ノ價ノ非常下落ノ原因ヲ解クニ足ラズ

總監

ワレンテン

一問十此事ハ全合衆國ニ付テ之ヲ云フカ又ハ其一地方ニ付テ之ヲ云フカ答是ミツワリリ河以西ニ付テ之ヲ云フ其中國リ諸州諸屬地ヲ含メリト知ルベシ此外英領コロンビヤ及ビ墨斯歌ノ西海岸ヲ開セテ之ヲ云フ

二問十サレバ足下ノ製セル千八百七十一年ヨリ千八百七十六年マテノ表ハ全合衆國ノ事ヲ掲グル者ニアラズレテ唯ミツワリ河以西ノ諸州諸屬ノ事ヲ載スル者ナリヤ而シテ此表中英領コロンビヤ及ビ墨西哥ノ西海岸ノ事ヲ登録セリヤ答然リ墨一マスマザトランノ事ヲ記セシノミ  
三問十サレバ足下ノ表ヲ正解スレバ合衆國ノ全表ニモ非ズ又合衆國內ニ限ルニモ非ラザルカ答然リ

四問十サレバ合衆國全部ノ金銀出高ノミニテ合衆國外ノ者ヲ除キタル義用ハ多少足下ノ計筭ト異ナル所アルベシ答然リ

五問十前二疑問ニ付誤ナキヤ答然リ

六問十足下ノ千八百七十六年中ノ産出ヲ計筭スル法足下ノ其前年ニ用ヒシ所ノ法ニ異ナルコトアリヤ答然リ然レ其異ナル所ノ點ハ通例銀ト呼ブ所ノ者ヲ通例我等ノ銀又ハ下等地金ノ部ニ入ル、者ノ中ニ在ル金及ビ鉛ヨリ引分ケタルノ一事ノミ

七問十サレバ其概畧ニ於テ大異同ナシト雖レ從來貴社ノ運送スル金銀ヲ識別スル方法ニ一進歩ヲ加ヘタリト云フモ可ナルカ答然リ

八問十サレバ千八百七十六年前ノ方法ハ毎年異ナルコトナシト云フ可ナルカ答然リ然レ此年前ノ計筭ハ頗ル詳細ヲ欠キ且多ク勞カヲ費サバリキ

問十 サレバ是下ノ用ヒシ所ノ方法ニ於テ変革ト云フベキ者ハ  
千八百七十六年ノ方法ト此年前ノ方法ノ差ノミナリヤ答然リ  
而シテ其差ハ試験ヲ精密ニセシ丁金属ヲ區別スル事是ナリ  
問二 今先千八百七十五年以前ノ事ヲ討究シ後千八百七十六年  
ノ事ニ及バン此年是下ノ製シタル千八百七十一、~~七~~十二、七十三、  
七十四、七十五年ノ表ハ唯前年是下ノ採見セル右五ヶ年ノ表ヲ  
復寫セル者ナルカ答然リ其騰寫ナリ

問二十 然ラバ毫モ変換セシ丁無キヤ答然リ変更セシ所ナシ  
二 是下右数年ノ表ヲ製スルニ是下ハ如何ナル方法ヲ以テ  
セシヤ是下ノ掲載セル所ノ計筈ハ何ニ由テ之ヲ定メタルヤ答  
金ノ計筈ハ我が通運社ノ手ヲ經テ鑛山ヨリ運送シタル金砂若  
クハ汞和金ノ高ニ基ク又我が社ノ手ヲ經ザル者ニ基ク而シテ  
此高ハ通例全額一割ト定ム金買其他金ニ関係スル人皆此割

合ヲ是トス社外ニテ運送スル高ハ大抵右種ノ人ノ手ヲ經ルナ  
リ又或ル場所ニ於テハ譬へバカノンオレゴンアイグホフロ  
レンスイルク等ノ諸坑ノ如シ其路程ノ遠キヲ以テ我が社ノ運  
送賃ノ割合頗ル高シ故ニ我が社ノ運送スル丁極メテ少キ丁ア  
ル此訳アルヲ以テ余ノ調査セント欲スル所ノ地ニ於テ金商ニ  
從事スル賣人ニ質問セシ後余初テ我社外ニテ運送スル所ハ一  
割ニ超過シ多キハ二割五分ニ至ル丁ヲ知レリ譬へバオレゴン  
ノワルドニ於テ其産出スル者皆飛脚船ヲ以テ運送スルガ如シ  
故ニ吾殊更ニ其地ノ人民ニ就テ之ヲ質シ其産出高ノ精筈ヲ行  
ハザル丁ヲ得ズ且余聞ク飛脚船ヲ以テ州ヨリ州ニ送ル所ノ高  
亦甚ダ多シト然レバ此高ハ全額ニ以例スレバ大関係アル者ニ  
非ズ此高ハ多キモ蓋シ百万弗ニ至ルベカラズ  
問二十 是下ハ唯右ノ方法ヲ以テ金ノ産出高ヲ統計シタルカ答



然リ

四問二十銀ニ付テハ如何ニ答銀ニ付テハ下等金ト名クル者ノ外ハ皆通運ヲ經タルト更ニ疑ヲ答レズ

五問二十足下ハ純銀ハ通運ヲ經タリト云フカ答純四百余ノ銀即チ銀地金ト名クル所ノ者ハ各地方ヨリ皆通運ヲ經タリト云フナリ

六問二十故ニ足下ハ通運高ヲ以テ此種ノ銀産ノ精算ヲ得タリト為スカ答然リ此種ノ運送帳ハ重複ノ誤ヲ犯スノ患ナシ如何トモレバ運送簿ニ記スル所ハ東方ニ於テハオグテン西方ニ於テハサンフランシスコノミオグテンヨリニユーロルクニ送りサレフランシスコニ送ルハサンフランシスコニ向クル為カ又ハ同所ヨリニユーロルクニ送ルガ為ナリ此途中此銀ヲ帳簿ニ再記スルノ事ナシ茲ヲ再算スルヲ要セズサンフランシスコ又ハ

サクラメントノマキ野ハ中心ナルヲ以テ斯ル所ヨリ發送スル者ヲバ我が社ノ計算中ニ之ヲ算入セズ但シ最モ精算ヲ要スルヲ以テ諸坑ノ監督ニ照會シ何年何日ト預メ年月ヲ定メ置キ此年此月中諸坑ノ産出高ヲ得之ヲ以テ我が社ノ運送帳ニ比較シテ相檢校セリ

七問二十右檢校ニ由テ大差異アルコトヲ知ル寸ハ足下更ニ調査ヲ加ヘテ其眞況ヲ求ムルカ答然リ

八問二十吾ノ足下ニ問フ所ハ專ラ千八百七十五年マテニ係ルノミ千八百七十六年ニハ及バザルナリ足下固リ之ヲ知ルナラン答然リ

九問二十足下ノ千八百七十五年以前ニ用ヒタル方法ニ非ズレテ同七十六年ニ施シタル方法ヲ以テ統計ヲ行ヒ寸其眞況如何ゾヤ吾之ヲ聞テ足下ノ千八百七十五年前ノ方法ト同七十六年

ノ方法トノ實際差異ヲ檢セントス乞フ之ヲ告ゲヨ答千八百七  
十一年ヨリ今七十六年マデ用ヒタル方法ハ實際ニ於テ異ナル  
トナシ唯今年ノ方法ハ少ク檢校ヲ行ヒ易キノミ  
問三 是下ハ此六年間毎ニ鑛坑所有者及ビ監督等ヨリ鑛物ノ出  
高ノ報告ヲ得タリヤ答否ト毎年報告ヲ得シニアラズ時々檢校  
ノ為ニ之ヲ得シノミ且全班ノ報告ニ非ズ今年鑛坑ノ報告ヲ得  
シト前年ニ比スレバ殆ド全班ニ係ル但吾鑛坑報告ヲ以テ運送  
報告ニ比較スルニ其差異甚ダ小ナリ故ニ吾以為ク他ノ年ニ於テ  
亦此ノ如クナルベク未ダ調査セザル他ノ諸件ニ於テモ亦此  
ノ如クナルベシト  
一 問三十 是下此方法ヲ以テ統計ヲ為スニ當リ或年(譬へバ千八百  
七十六年)ニ於テ是下ノ運送ニ由テ認メタル額ト鑛山ヨリノ報  
告トニ於テ多少差異を生セシトアリヤ答著キ差異ナシ此等ニ

付一言スベキ  
リ鑛山報告ハ其他ニ在テ坑事ニ親炙スル人  
ノ製スル所ナリヲ以テ甚ダ信ズヘキレト為シ屢々之ヲ宣布スル  
トアリ然レモ吾ノ經驗スル所ニ據レバ此報告ハ概シテ信ズベ  
キ者ニアラズ  
二 問三十 然レモ是下ハ鑛坑所有者及ビ其監督ノ報告ヲ以テ猶信  
ズベキ所アリト為スカ答然リ吾未ダ其全ク實ヲ誤レル者ヲ見  
ズ  
三 問三十 是下千八百七十六年前ノ何年ニ於テ鑛山所有者及ビ監  
督ノ銀産高報告ヲ以テ運送會社ノ運送帳ノ計策ニ比較セリヤ  
答吾諸鑛山所有者ヨリ印刷報告ヲ受クルト皆同時ニ非ズ吾ニ  
報告ヲ送リシ者ハベルチル及ビクラオンポイント及ビ其他ノ  
諸坑ナリ吾此千八百七十二年七十三、七十四年ノ印刷報告ヲ  
以テ我が社ノ印刷報告ニ比較セリ今吾ノ記憶スル所ニ於テ

ムストツク脈ヲ以テ最上トナス而レテ其兩計筭坑人ト運送社  
トノ計筭大ニ踞路スルコトナク唯小差ヲ見ルノミ  
四 三十鑛坑所有者及ビ其監督ハ其產出表ヲ刊行スルニ其姓名  
ヲ掲ゲテ之ヲ證スルヤ或ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ證スルカ答吾  
ノ閱セシ所ノ表ハ雜誌中ニ於テ之ヲ得タリ而シテ皆年報ナリ  
五 三十各坑ノ會計年度ハ皆其始終ノ時ヲ異ニスルカ答然リ  
六 三十サレバ甲坑ノ年度ハ三月一日ヲ以テ終リトナシ乙坑ノ  
年度ハ五月一日ヲ以テ終リト為シ丙坑ノ年度ハ十月一日ヲ以  
テ終リト為シ其他皆此ノ如シ然ルニ足下ノ表ハ常曆即一月一  
日ヲ始ト為シ十二月三十一日ヲ終リト為ス足下如何ンガシテ  
斯ク時限ノ異ナル年報ヲ以テ常曆ヲ以テ筭シタル貴社ノ計筭  
ニ比較シ其異同ヲ檢セシヤ 答諸坑ノ簿記方ヨリ右ノ年度後ノ  
計筭ヲ報ズルニ於テ之ヲ常曆ノ計筭ニ比較スルコトヲ得タリ我

ガ社ニ於テ盡ク其地金運送ヲ引請クルヲ以テ我が社ヨリ諸  
坑ノ簿記方ニ依頼スレバ銀產ノ報告ヲ得ルコト甚ク自由ナリ諸  
坑ノ書記方未ダ嘗テ我が社ノ依頼ヲ拒テ報告ヲ為サバ爾コトナ  
シ毎ニ喜テ我が社ニ報告スルナリ我が社未ダ嘗テ唯一坑ノ計  
筭ニ由テ報告ヲ為サバ爾ナリ  
七 三十ウオルヂニヤ合同坑ベルニル坑ノ二大坑及ビ其他諸坑  
ニ於テ前週間ニ吾其簿冊ヲ閱セシニ過去ノ表ハ皆年表ニシテ  
月表ニ非ズ然ルニ足下如何ンガシテ其月報ヲ得如何ンシテ  
端年(滿年ナラズ)ノ計筭ヲ得タルヤ諸坑既ニ自ラ月表ヲ有セズ  
而シテ如何ンガシテ貴社ニ之ヲ報ゼシヤ 答吾之ニ答フルコト能  
ハズ但千八百七十六年吾殊更ニウオルヂニヤ合同坑及ビベル  
チル坑ノ監督ニ請フテ其常曆年報ヲ得タリ即卿ノ覽ニ供セシ  
所ナリ

千八百七十六年一月一日ヨリ十二月三十一日  
迄ウオルヂニヤヨリ發送シタル地金ノ表

坑名即社名	金價	銀價	合計
ウオルヂニヤ合同坑	七、五八〇、五四、三六	九、五六九、七五、三七	一七、一五〇、二六、七三
カリホルニヤ	五、八一八、四八、五〇	六、二五〇、二五、八三	一一、〇六八、七四、三三
オコル	一、〇三三、一三、四三	一、二三〇、三九、二七	二、二六三、五二、七〇
チコルラビボトシ	一、四九、五八、八一	二、一八、一五、七、九六	四、六七、七四、七七
クラオン、ポイント	三、九二、七三、二七	五、六、三一、二、五	九、〇九、〇四、〇〇
チヨステス	一、六九、九九、五五	三、〇五、〇一、六九	四、七五、〇一、二四
ベルチル	一、六二〇、二八、四五	九、八六、五七、八、五二	一一、四八六、八五、九七
パシロ、水車及、鑛山社	二、二〇、五七、五、四五	六、九三、四九、四〇	九、一四、〇七、〇〇
ウードウ、チスルース社	一、八、七六、九、六六	八、〇、八一、七、八七	九、九、五八、五三
諸監定場	七、七〇、八六、九二	四、九、一四、六、八四	一二、六、〇一、五六
合計	一七、三六、一三、九〇	一九、九七七、五七、〇八	三七、三三、七〇、九八

ウオルヂニヤ府在留ウエルス、ハルゴ社代理

ペンデルガスト

同三十 足下前數 年 於テ千八百七十六年ノ如クニ比較シ

以テ真偽ヲ檢査シリトモヘリ然ルニ諸坑ノ簿冊ハ唯其會計年  
度ヲ以テ記シテ別記セシ者ナシ足下ハ如何ナル方法ヲ  
以テ年度外ノ端年ノ報告ヲ得シマ答吾此問ニ答フル所以ヲ知  
ラズ然レモ吾我ガ社ノ會計ニ付一ヶ月如何シニヶ月如何シ等  
チ知ルニ於テ毫モ難キナシサスレバ鑛業會社ニ於テモ亦之  
ヲ知ルニ難キナシ無ルベシ

同三十 貴社ノ簿冊ニ登記シタル諸坑產出高ハ何ニ拠テ之ヲ記  
スルヤ運送帳ナリヤ新聞紙ナリヤ答運送帳ニ拠ル

同四 唯貴社ノ帳簿ニ由テ運送高ヲ知リ之ヲ以テ諸坑ノ產出高  
ヲ定ムベシトナラバ千八百七十五年ヨリ前ハ比較交証ヲ行フ  
ト云フベカラザルガ如シ答前數年ト雖モ亦千八百七十六年ト  
同方法ヲ以テ檢査シタルナリ諸坑ノ書記方ヨリ得タル實際產  
出高ヲ以テウエルス、ハルゴ社ノ實際運送高ニ比較シタルナリ但

前三年間ウオルヂニヤ府トカルソンニ付テハ少差異アリカル  
ソノ造幣局ニ於テ分拆シタル地金甚ダ多シ三百五十万乃至  
四五百万ナリカルソン河沿岸ノ諸水車場及ビ其他ヨリ送りタ  
ル高ヲ定ムルニハ造幣局ノ實際預リ高ヲ取リ以テカルソンニ  
輸来シ又オグデンヘ輸送セル實際ノ高ヲ檢校セリ故ニ三證ヲ  
以テ諸鑛山ノ産出表ヲ校訂シタル理ナリ  
一四サレバ足下ノ云フ所ハ貴社ノ普通運送帳ニ由テ諸坑ノ  
産出高ヲ知リ又諸坑ヨリ一地方運送ヲ以テカルソン造幣局ヘ  
送りタル高ヲ知リウオルヂニヤ府ヨリカルソン迄ノ運送帳ト  
全國普通ノ運送帳トヲ比較シタリト云フニ在ルカ答然リ諸坑  
ヨリ造幣ノ為カルソンニ送りタル高ノ報告表ヲ檢校スルニ一  
地方運送高及ニ造幣局實際預リ高ヲ以テセシナリ  
二四今假リニ或鑛山ニ於テ地金五百万弗乃至千万弗ノ産出

シ之ヲカルソン造幣局ニ送ラズシテサンフランシスコニ運輸  
シタリトナサンニ何月ヨリ何月迄ノ假定高ヲ檢校スルニ何ヲ  
以テセンカ足下ハ如何ガ之ヲ檢校セシヤ答吾等ノ第一假定ハ  
若造幣局ニ送ラズンバ通運社ノ手ヲ經テカルソンヨリサンフ  
ランシスコニ輸スルニ必然ナリト為スナリ次ニ鑛坑ノ産出報告  
ヲ以テ右假定高ヲ檢校スルナリ

三四十今一例ヲ拳ゲテ諸坑ヨリ送ル所ノ鑛坑産出報告ヲ以テ  
檢校スル方法ヲ問ハントス吾ノ記憶スル所ニ於テヤルローヂ  
ヤケツノ會計年度ハ七月一日ヲ以テ年末ト為ス故ニ其鑛産報  
告ハ七月一日ニ終ル所ノ年ヲ以テ之ヲ製ス今其千八百七十五  
年ノ産出高ハ百万弗ニシテ其半ハ金半ハ銀ナリトナシ足下此  
報告ヲ得ルト雖モ十二月三十一日ニ終ル所ノ常曆ヲ以テスル  
ヲ便トシ乃チ貴社ノ運送高ニ由テ計集ヲ為シ猶之ヲ檢校レテ

其正否ヲ知ラント欲シ諸坑ノ報告ヲ引證セリトナサンニ其中  
ヤルローヂヤケツノ報告ハ常曆千八百七十五年ノ七月一日ニ  
止マリ唯此年ノ上六ヶ月ヲ含ム所ノ該坑會計年ノ産出高ヲ表  
スルノミ而シテ此上六ヶ月ノ計集ハ其前六ヶ月即チ常曆千八  
百七十四年ノ下六ヶ月ノ計集ニ合シタル者ニテ該坑會計年ノ  
總計ナリ叔ヤルローヂヤケツノ帳簿ニ由テハ常曆千八百七十  
五年ノ下六ヶ月ノ月計ヲ知ル丁能ハズ是下ハ唯上六ヶ月ヲ記  
シテ下六ヶ月ヲ記セス上六ヶ月ト虽モ其前六ヶ月ト合算シタ  
レ該坑ノ刊行報告ヲ以テ如何ンガシテ該坑ノ實際證左ヲ得シ  
ヤ又該坑ハ如何ンガシテ常曆千八百七十五年ノ下六ヶ月ノ報  
告ヲ為ス丁ヲ得シヤ答吾別ニ答フベキ辞ナシ唯吾該坑書記方  
ノ製セル收入表ヲ以テ之ヲ檢校セリト云ハンノミ  
問四十 是下ノ諸坑書記方ヨリ得タル所ノ報告ハ寫本ナリヤ答

否ナ然ラズ吾三ヶ年ノ印刷報告ヲ得タリ而シテ此三ヶ年ノ印  
刷報告ハ持ニケラオン、ポイントニ係ル  
問四十 クラオン、ポイント坑ノ會計年度モ亦常曆ト年末ヲ異ニ  
ス蓋シ五月一日ヲ以テ其年末ト為ス故ニクラオン、ポイントモ  
亦ヤルローヂヤケツノ例ナリ是下唯クラオン、ポイントノ印刷  
報告ヲ得ルノミニシテ其書記方ヨリ別ニ月報ヲ得ルニ非ズ而  
シテ是下ノ計集ハ常曆ヲ以テス斯ク年度ノ異ナル年報ヲ以テ  
是下ハ如何ンガシテ是下ノ常年計集ニ比較セリヤ答吾固ヨリ  
諸鑛業會社ノ簿記ノ方法ヲ知ルニ由ナク其記録ノ如何ヲ知ラ  
ズ又記録ノ有無ヲ知ラズ然レモ吾地金ノ産出高ニ付此諸會社  
ニ之ヲ質シテ未ダ嘗テ速ニ其報答ヲ得ズンバアラス但此報答  
ノ正カ非カ又何ヲ基本トシテ此報答ヲ為スカ吾遂ニ之ヲ説ク  
丁能ハザルナリ

六問 四十 足下諸坑ノ書記方、監督社長等ヨリ印刷報告ノ外ニ報告ヲ受ケシトアリヤ答本式ノ報告ヲ受ケシトヲ記セズ

七問 四十 足下常テ寫本ノ報告ヲ得シトアリヤ答吾之ヲ得シトヲ記セズクラオン、ポイントノ書記官ヨリ寫シタル表ヲ送り來リ

八問 四十 然レト本式ノ報告ニアラズ唯吾ニ月報ヲ供セシノミ吾諸坑ノ出高及ビ利益、割賦金ノ割合ノ月報ヲ乞ヒ三ヶ年ノ月報ヲ得タリ

九問 四十 右ノ月報ハ出高ノ表ナリヤ割賦金ノ表ナリヤ答両ガラ之ヲ掲ゲタリ

十問 四十 右ノ表ハ金銀ヲ別ケテ之ヲ掲ケシヤ答否ト然ラズ之ヲ別ツハ今年ヲ以テ初トナス此ヨリ前ハ吾未ダ常テ諸坑ノ之ヲ別記セシトヲ聞カザルナリ

十一問 五十 足下他坑ヨリクラオンポイント坑ノ月報ノ如キ報告ヲ得

十二問 五十 其後他ノ驛ニ於テ之ヲ貴社ノ運送簿ニ記入スルコトナシ

十三問 五十 其後他ノ驛ニ於テ之ヲ貴社ノ運送簿ニ記入スルコトナシ

十四問 五十 其後他ノ驛ニ於テ之ヲ貴社ノ運送簿ニ記入スルコトナシ

十五問 五十 其後他ノ驛ニ於テ之ヲ貴社ノ運送簿ニ記入スルコトナシ

十六問 五十 其後他ノ驛ニ於テ之ヲ貴社ノ運送簿ニ記入スルコトナシ

十七問 五十 其後他ノ驛ニ於テ之ヲ貴社ノ運送簿ニ記入スルコトナシ

十八問 五十 其後他ノ驛ニ於テ之ヲ貴社ノ運送簿ニ記入スルコトナシ

十九問 五十 其後他ノ驛ニ於テ之ヲ貴社ノ運送簿ニ記入スルコトナシ

二十問 五十 其後他ノ驛ニ於テ之ヲ貴社ノ運送簿ニ記入スルコトナシ

二十一問 五十 其後他ノ驛ニ於テ之ヲ貴社ノ運送簿ニ記入スルコトナシ

二十二問 五十 其後他ノ驛ニ於テ之ヲ貴社ノ運送簿ニ記入スルコトナシ

ヤ答決シテ之ナシ

六 五十銀地金精製ノ為ニ或ル銀坑ヨリ之ヲオグデン若クハ  
一ルト、レキー府ニ送致スルコトアリヤ答然リ  
一ルト、レキー府ニ送致スルコトアリヤ答然リ  
ニ之ヲ送ルナリ

七 五十精製ノ為ニ之ヲソールト、レキー府ニ運送スル路中  
通運社ノ手ヲ經ルコトアリヤ答之ナシ但精製セシ後ハ通運社ヲ經ル  
コトアリ

八 五十諸鑛坑ヨリソールト、レキー府ニ運送スルニハ何ヲ以テ  
之ヲ致スヤ答或ハ駄車ヲ以テレ或ハ駄汽車ヲ以テス其時ノ宜  
キニ隨フノミ鐵道ニ沿フ者ハ必ズ駄汽車ヲ以テレ決シテ通運  
ニ係ルコトナシ恒下等地金ニ付テ之ヲ云フ

九 五十荷主貴社ノ通運ヲ經テ之ヲ送ラズレテ他ノ運送ヲ選バ  
所以ハ他ノ運送ノ利益ナルニ在ルカ答固ヨリ然リ通運ノ賃銀

ハ多クハ鐵道ノ運賃ニ三倍スルナリ且唯常汽車賃ノ三倍ナル  
ノミナラズ一等汽車賃ノ三倍ナリ

十 六足下ノ云ハ所ノ賃銀ハ重量ニ由ルカ大サニ由ルカ答重量  
ニ由ル銀地金中鉛ノ重量多キニ居ル而シテ此鉛ヲバ下等汽車  
賃ヲ以テ之ヲ運輸スルナリ

一 六十既ニ下等銀地金ヲ精製セシ後鐵道會社ノ運送ヲ經スレ  
テ貴社ノ運送ニ由レバ荷主ニ於テ如何ナル利益アルカ答其利  
數件アリ通運社ニ於テ其價丈ヲ低價スルコト運輸ノ迅速ナルコ  
ト其取扱方ノ終始同ナルコト災難ノ少キコト是ナリ但轍道驛車駄  
汽船及ビ其他ニ於テ銀ヲ通常商品ノ割合ヲ以テ運送スルコトヲ  
聞カズ常ニ財貨運賃ト名クル割合ヲ以テ之ヲ運送シ重量ヲ以  
テ賃銀ヲ定メズレテ價格ヲ以テ定ムルナリ  
二 六十貴社ニ於テ用ユル所ハ從價賃銀ナリヤ答然リ



三問六十 鐵道會社ノ用ユル所モ亦從價賃銀ナリヤ答然ラズ該社ハ毫モ價ニ関セズ

四問六十 サレバ足下ノ云フ所ヲ明言スレバ實際ニ於テ地金ノ未ダ精製ヲ經ザル者ハ決シテ貴社ノ運送ニ係ラズト云フナルカ  
答否ナ

五問六十 既ニ精製ヲ經シ後毎ニ貴社ノ運送ヲ經ルヤ答精製ノ後金銀ハ毎ニ弊社ノ運送ヲ經ルナリ

六問六十 貴社既ニ金銀ヲ甲地ヨリ乙地ニ運送セシ後又貴社ノ手ヲ以テ之ヲ乙地ヨリ丙地ニ運送スルコトアリヤ答往々之アリ然レ氏決シテ之ヲ新産金銀トシテ之ヲ計筈セザルナリ(重複計筈セズ)

七問六十 貴社ニ於テ精製シタル金銀ヲ運送スル寸ニ毎ニ荷主ヲシテ其新産ナリヤ否ナヤノ書証ヲ出サシムルヤ若然ラザレバ

6

足下ハ如何ニガシテ其新産ナリヤ否ヤヲ識別スルヤ答金銀ノ産所ヨリ西ハサンフランシスコニ至リ又ニユーロルクニ送ル者ニ付東オグレンニ至ルマデハ吾社ニテ自ラ其新産ナリヤ否ヤヲ實檢スルノ手段アリ

八問六十 通常ノ運送線ヲ經ズシテ運送スル者ニ付テハ足下蓋其新産ナリヤ否ヤヲ確知スルノ手段ナキナリ答然リ

九問六十 斯ク通常ノ運送ヲ經ザル者ハ大抵幾許タアリト為スカ答銀及ビ銀中ノ金丈ニ付テハ甚ダ多カラザル者ノ如シ金ノ新産ニ付テハ大抵五分許ノ重複アルカ如シ

十問七十 通常運送ニ係ラザル銀ニ付テハ足下如何ニガシテ其多寡ヲ筈定スルヤ答吾十五年間此種ノ事務ヲ經驗シ其大抵應ニ然ルベキコトヲ監定スルノ手段ヲ得タリ之ヲ以テ之ヲ筈定スルナリ夫レ地金ノ産セシ地ヨリ直キニサンフランシスコ又ハオグ

テンニ送致スルハ途中ノ他所ニ送致スルニ以スレバ頗ル荷主  
ニ利益アリ途中ノ他所ニ送致スレバ其費銀必不多カラザルヲ  
得テ如何トナレバ途中ニ於テ更ニ續送スレバ其度ゴトニ種々  
ノ費ヲ拂ハザルコトヲ得ザレバナリ故ニ吾等ノ觀察スル所ニ批  
レバ荷主ハ毎ニ直キニサシフランシスコ及ビニューヨーク(カ  
グデンニ送ルハニエーヨルクニ致スガ為ナリ)ニ送致スルナリ  
是其費少キヲ以テナリ

一問七十送荷状ノ重複ノ問答ヲバ此ニテ止メ更ニ足下ノ如何ナ  
ル方法ヲ以テ雜地金中ノ金銀ノ割合ヲ算決スルカヲ問ハント  
ス乞フ足下ノ決算法ヲ示セ答第一ニハ吾等八百六十二年同六  
十三年同六十四年同六十五年ノ間ウオルゲニヤ府ニ住セシニ  
由テ千八百六十一年以後ノコムストツク脈諸坑ノ産出高ヲ詳  
知スルコトヲ得タリ千八百六十一年ヨリ以後此脈ヨリ掘出シタ

ル金銀雜地金重量一磅ニ付其價二十弗乃至三十五弗ナリ此高  
下アルハ脈中鑛質ニ異同アレバナリ此ヲ我が計算ノ第一階梯  
トナス第二ニハ我が社ニテ運送シタル諸坑ノ地金ノ監定價格  
ヲ以テ計算ノ階梯トナスナリ蓋シ諸坑ハ銀十五半金一ノ四定  
比例ヲ以テ地金ノ價ヲ定ムルナリ我社毎ニ此價格ヲ以テ運送  
簿ニ記シ且地金ニ印シタル金ノ價若シ銀ノ價若シヲ別記ス往  
々金銀ノ價格ヲ合記シ各々若シト別記セザル者アリ然レモ金  
銀ノ監定價格ヲ分記スル者ナレバ運送簿ニモ亦大抵之ヲ分記  
スルナリ

二問七十 或坑若クハ或人其雜地金ヲ通運社ニ任ジテ運送センム  
ルコトアレバ通運社ハ地金ノ價ニ從テ價銀ヲ收ムルカ雜地金ノ  
價格ハ之ヲ運送目錄ニ登記スルカ答毎ニ然リ

三問七十 地金ノ合價格ヲ記スルカ答然リ

四問七十地金ノ合價格ノ外ニ他ノ細目ヲ記スルコトアルカ答吾未  
ダ之ヲ知ラズ

五問七十貴社ノ運送簿ニ唯地金ノ合價格ヲ記スルトナスナハ足  
下ハ如何ナル方法ヲ以テ地金中金若干銀若干ナルコトヲ知ルカ  
答唯吾等ノ善ク諸坑ノ鑛質ヲ知ルニ由テ之ヲ識別スルコトヲ得  
ルナリ別ニ方法ナシ某坑ノ産スル所ノ金銀ノ割合ヲハ專ラ吾  
等ヴオルゲニヤ府ニ住シ多年鑛質ヲ經驗セシニ由テ之ヲ畧定  
シタルナリ

六問七十足下敷年間ヴオルケニヤ府ニ住シ其近傍諸坑ノ發送ス  
ル地金中金銀ノ割合ヲ算定スル際ニ此割合ノ多少變易セル  
コトアリヤ甲敷年ハ金ノ割合多ク乙敷年ハ銀ノ割合多シ等ノコ  
トアリヤ答然リ

七問七十諸坑ヨリ發送スル地金ノ金銀ノ差ハ大ナリヤ答然リ

八問七十例ヘバベルケル坑ヨリ出シタル地金ニハ金多クシテ銀

少キガ如キコトアリヤ答然リ

九問七十又或ル坑ニ於テハ銀多クシテ金少キコトアリヤ答然リ

十問八十諸坑ノ産物ハ時ニ隨テ貴賤アリヤ或ハ貴金屬ヲ出シ或ハ  
賤金屬ヲ出ス等答然リ

一問八十同坑ニ於テ甲時ハ貴金屬ヲ出スコト多ク乙時ハ之ヲ出ス  
コト少キコトアリヤ答然リ

二問八十諸坑ヨリ産スル所ノ合額ニ於テ金銀ノ割合年々差異ア  
リ又各一坑ヨリ産スル所ノ金銀ノ割合日々差異アリト為ス寸  
ハ諸坑ヨリ發送スル地金中金銀ノ割合常ニ同一ナルヲ得ン  
ヤ必ズ誤謬アルガ如シ答然リ小誤謬ナキヲ得ス

三問八十足下千八百七十六年ニ於テ足下ノ計算法ヲ改良セリ是  
下ノ改良方法ニ於テ足下ハ如何ガシテコムストツク脈近地ヨ

リ發送シタル雜地金中ノ金銀ノ割合ヲ算定セシヤ答各坑ノ實際報告各鑛屑精製水車會社ノ報告ウオルゲニヤ府ノ各監定局ノ報告ヲ得之ヲ以テ算定セリ水車社及監定局ノ者ハ格別大關係アル者ニアラス諸坑ノ報告ノ合計ハ正ニ運送簿ニ由テ得タル所ノ合計ト一致セリ

四 八十是ヲ以テ觀レバ通運法ノ正否ノ檢校ハ唯合計ノ比較ニ止ルカ答然リ

五 八十金銀ノ割合ニ於テハ之ヲ他ニ比較シテ以テ其正否ヲ考フルノ方法ナキヤ答否ト吾等通運法ト諸坑ノ實際報告ト其合計ノ相一致スルヲ見タリ故ニ又諸坑ヨリ金銀割合報告ヲ得タリ

六 八十是下若クハウオルゲニヤ府在留足下ノ代負ハ千八百七十六年ノ何月日ヲ以テ諸坑ニ向テ其報告ヲ請求セシヤ吾明カニ其月日ヲ知ラント欲ス答吾等千八百七十六年十二月一日頃

此請求ヲ為セリ

七 八十十二月一日後幾日ナリマ答殆ド十二月一日頃ナリ然レ

氏吾ノ報告ヲ見シハ同月二十日後ニ在リキ

八 八十諸坑ノ報告ハ皆同日ニ來リシヤ又ハ同週間ニ來リシヤ又ハ隔一兩日ニ別々ニ來リシヤ答吾ノ察スル所ハ兩三日中ニ

追々來リシナラン我が社ノ代負ヨリ之ヲ收拾シテ送致セリ

九 八十此報告ヲ貴社ノ代負ノ所ニ成リシハ大概何日頃ナリシヤ答吾ノ察スル所ニ概レバ大抵十二月ノ半頃ナラン但之ヲ確

言スルコト能ハズ

十 九 是ヲ以テ觀レバ千八百七十六年十二月十五日ヨリ千八百七十七年一月一日迄ノ空間アリ是下如何ナル方法ヲ以テ此間ノ金銀產出高及ビ其割合ヲ檢校セシヤ答前數月ノ平均ニ基キ

テ此空間ノ計策ヲ行ヘリ

一 同九十此空間ノ計策ハ唯割合ノミニ係ルトナスカ又ハ産出高ニモ関スルカ答産出高及ビ割合ニ係ル産出高ノ大ナル者ウオ  
ルダニヤ及ビゴルド、ヒールニ於テノコムストツク脉ナリ此脉  
外ニ於テハエーレンカノリ<sup>ダ</sup>チモ<sup>ト</sup>坑ヲ以テ子ヴダ州中金産  
ノ最モ多キ者ト為スアイダホ屬地ハ現今産出アリ但レ前坑ニ  
ハスレバ甚ダ僅少ナリ

二 同九十リツチ<sup>セ</sup>ンド坑ニ於テ金ノ割合ハ如何ン答我ガ察スル  
所ニ據レバ其産物ノ價ノ半ハ金ナリト思ハル

三 同九十是下コロ<sup>ン</sup>ピヤ坑ノ事ヲ知ルヤ答大抵其鑛物ノ二割五  
分ハ金ナリ

四 同九十パイオセー坑ハ如何ン答大抵五分若クハ六分ナリト聞  
ク

五 同九十エー<sup>タ</sup>及ビコロラドノ諸坑ハ如何レ答此二地方ハ皆多  
ク金ヲ出サズエー<sup>タ</sup>ノ産物ハ多クハ下等地金ヲ以テ發送ス其  
産スル地金ノ中鉛ノ量最モ多キニ居ル但其中銀ノ價最モ大ナ  
ルハ論ヲ待タズ

六 同九十是下ノ千八百七十六年十二月三十日刊行報告ニ於テ刊  
ワダノ全産出高ノ三割五分ハ金ナリトアリ是下ハ如何ンカシ  
テ之ヲ知ルヤ答吾該州ノ産出ニ係ル所ノ金ノ全額ヲ以テ該州  
ノ全鑛産ニ割合セ以テ之ヲ得タリ

七 同九十是下ハ子ヴダ州ノ部ニ通運ニ係ル金砂及ビ地金ヲ二十  
二万弗ト記シ他ノ運送ニ係ル者ヲ二万二千弗ト録セリサレバ  
金砂及ビ金地金ノ全額ハ凡ソ二十四萬二千弗ナリ又貴通運ニ  
係ル所ノ銀地金ハ雜地金ヲ合セテ四千四百七十万ト記セリヤ  
答然リ

問九十 其中三千七百萬弗ハコムスツク脈ヨリ生ゼリ其金若干銀若干ノ割合ヲ決定スルコトヲ得ルヤ答然リ  
九 然ラバ其八百万弗ハ子ヅダ州外他ノ地方ニ於テ之ヲ生ズルヤ答然リ

問百 是下ノ表中舶送鑛物及ビ地金ノ部ニ子ヅダ州四百三十万弗ト記シタリ是下ハ此額中金銀ノ割合ヲ算定スルニ如何ナル方法ヲ以テセンヤ答一ハ直チニサンフランシスコノ諸鑛業會社役員ノ開示ニ由リ一ハサンフランシスコ及ビユールカノ鑛製場ノ報告ニ由テ之ヲ定メタリ

問百 吾是下ノ表ヲ觀ルニ千八百七十六年ノ子ヅダ州ノ鑛産ヲ金銀合四千九百二十万弗ト記シタリ今吾是下ニ向テ此四千九百二十万弗ノ中金銀及ビ下等地金各々幾許ナリマシヤ問ハントス是下コムストツク産額三千七百万弗ノ中金千七百万弗銀

千九百九十万ト記シタリ然ラバ四千九百二十万ノ中三千七百  
万ハ右ノ割合ナリト云フモ妨ゲナキカ答然リ

問百 四千九百二十万弗ノ中殘四百三十万弗ハ鑛物及ビ下等地  
金ノ部ナリ該殘額計算法ニ付テハ吾既ニ是下ノ辨解ヲ聞キタ  
ルヲ以テ今更ニ之ヲ再問スルコトヲ用ヒズ直ニ此四百三十万弗  
ヲ金銀ニ分ツ寸ハ各々幾許ナルヤ問ハントス是下ハ此鑛物  
及ビ下等地金ノ中幾許ヲ以テ金トナシ幾許ヲ以テ銀ト為スヤ  
答此四百三十万弗ノ中金ハ唯其百分ノ五許ナリ故ニ吾之ヲ割  
合ニ立テザリキ

問百 其幾分ハ金其幾分ハ銀其幾分ハ鉛等ナリシヤ答 吾唯銀幾  
許ト云フコトヲ得ルノニ金ハ少クシテ確乎タル計算ヲ為シカト

問百 是下ノ表中金ヲ幾許ト算セリヤ答 金ハ殆ド計算スルニ足

ラズ但タイボー坑ハ此限ニ非ラズイボー坑ノ鑛質ヲ熟知セ  
ズ蓋其産出高ハ六十万弗許ナリ

問百 四百三万弗ノ中銘等ノ下等金屬ハ幾許アリヤ答概畧百四  
十万弗ナルベシ

問百 四百三十万弗ノ中銀ハ幾許アリヤ答殘額ハ盡ク銀ナルノ  
理ナリ金ハ殆ド之ナシ吾ノ疑ヲ決スル能ハザル者六十万弗ア  
リ是即チタイボーノ産高ナリ吾此高ノ何金屬ニ俵ルヤヲ説クコ  
能ハズ又其中ニ金アリヤ否ヤヲ知ルニ由ナシ

問百 然ラバ此四百三十万弗ノ中諸金屬ノ割合ニ付足下ノ決答  
ハ如何ン答吾ハ銘凡ソ百三十万弗其餘ハ盡ク銀ニシテ金ハ殆  
ド計筭ニ入ルニ足ラズト云ハントス

問百 足下ハ金ヲ以テ其百分ノ五ナリト為スカ答吾ハ以テ殆ド  
筭スルニ足ラズトナス

問百 足下ノ決答ハ四百三十万弗ノ中銀其三百万弗ニ居ルト為  
スカ答然リ吾又一言スベキコトアリ子ヴダ州ノユールカ區ノ鑛  
物及ビ下等地金中ニ金ヲ含有スルコト他地ノ者ニ比スレバ甚ダ  
多シユールカノ或坑ヨリ産スル地金ヲ精製シテ格外ノ金ヲ得  
ルコトアリ故ニ此地金ハ三十五磅以下ノ重量ニシテ千弗ノ價ヲ  
有スルコトアリ

問百 子ヴダ州ノ全産出高四千九百二十万弗ノ中猶殘額二十四  
万二千弗アリ而シテ此殘額ハ盡ク金ナルガ如シ果シテ然リヤ  
答吾ノ觀ル所ヲ以テスレバ果シテ然ルガ如シ吾諸坑ノ産高ヲ  
收拾シテ此殘高中ノ二十二万弗ヲ得タリ

問百 子ヴダ州ノ四千九百二十万弗ノ最末殘高ハコムストツ  
ク脉外子ヴダ州中ニ生シタル金銀合七百七十万弗ナリ今吾足  
下ノ計筭スル所ニ由テ其金銀ノ割合ヲ知ラント欲ス答天畧金

下ノ計筭スル所ニ由テ其金銀ノ割合ヲ知ラント欲ス答天畧金

百五十万弗銀六百二十万弗ナリ  
向百十子ヴダ州ノ鑛産ナル四千九百三十万弗中ノ諸分額ニ付  
是下ノ関示スル所ニ拠レバコムストック脈ノ産高ハ金千七百十  
万弗銀千九百九十万弗銀〇弗ニシテ合三千七百万弗ナリ又諸  
運送鑛物及ビ下等地金ノ部ニ於テハ金〇弗若クハ之アルモ筭  
スルニ是ラザル程ナリ其銀三百万弗銀百三十万弗ニシテ合計  
四百三十万弗ナリ又コムストック外子ヴダ州中ニ生ズル所ノ金  
二十四万二千弗アリ銀及ビ銀ナシ故ニ其總合計亦二十四万二  
千弗ナルノモ又コムストック脈外ニ生ジタル雜地金申金五十  
万弗銀六百二十万弗銀〇弗ニシテ合計七百七十万弗アリ此四  
分額ノ總計即チ三千七百万弗四百三十万弗二千四万二千弗七  
百七十万弗ノ四分額ノ總計ハ四千九百二十万弗ナリ此分額ヲ  
以テ精覈ニシテ信ズベシト為ス寸ハ子ヴダ産高中五割九分ニ

シテ二千九百十萬弗ニテ四千九百二十萬弗ト比例ナリ金ハ三割  
ハ分ニシテ千八百八十萬弗ト四千九百二十萬弗トノ比例ナリ  
銀及ビ其他ノ下等金屬ハ三分ニシテ百三十萬弗ト四千九百二  
十萬弗トノ比例ナリ今右ヲ以テ實事ト為ス寸ハ子ヴダ州ノ全  
鑛産中金其三割五分ニ居ルナリ是下計表ヲ製スルニ當テ如何  
ンガレテ子ヴダ州鑛産中金其三割五分ニ居ルノ實事ヲ知ルコ  
ト得タリヤ吾卿ニ鑛産ノ弗數ヲ説キレ際思ハズ割合ノ談ニ  
及ベリ卿ノ筭セルカ此ノ我が表中ノ金ハ正ニ三割八分ニ當ル  
ナリ右ノ表ヲ製セル後我が社検査役者ヲ助ケテ論ズル所アリ  
吾其説ヲ斟酌シ割合ヲ減ジテ三割五分ニ當ル弗數ニ改メタリ  
當時吾此検査役ノ説ヲ理アリトシテ之ヲ改メシガ今其説ヲ忘  
失レタリ

附言 吾ノ自 筭定セル三割八分ハ甚ダ正シク三割



寫字ノ誤ニレリ當時煩忙ニシテ之ヲ調査スル  
リキ

千八百七十七年一月三日

ワレンテン

同百十再ビ足下ノ千八百七十六年十二月三十日ノ刊行表ニ付  
實ス所アラントス表中子ブダ州ノ全産出ヲ以テ四千九百二十  
万弗ト掲ゲタリ而シテ此高ノ中百三十万弗ヲ以テ銘及ビ其他  
ノ下等金屬ト記シタリサレバ子ブダ州ノ貴金屬ノ全産出高ハ  
四千七百九十弗ナルベシ而シテ銀ノ合計二千九百二十万弗ハ  
四千七百九十万弗ニ對シテ六割〇七厘ニシテ金ノ合計千八百  
八十万弗ハ四千七百九十万弗ニ對シテ三割九分三厘ナリ今昔  
足下ノ表ニ基テ金銀ノ割合ヲ定メ其算法ノ正否ヲ知ラズトモ  
氏敢テ之ノ以テ足下ノ覽ニ供シ更ニ足下ニ實ス所アラントス  
足下ノ十二月三十日ノ刊行報告ニ拠レバ千八百七十六年子ブ

州ノ金銀産出高ノ千銀ハ六割〇七厘ニシテ金ハ三割九分三  
厘ナリヤ答然リ

同百十吾足下ノ千八百七十六年十二月三十日ノ報告ニ於テ通  
運ニ係ル所ノ合衆國ノ銀地金ハ總計五千八百八十万ニシテ其中  
子ブダ州ノ出産四千四百七十万弗子ブダ外諸州ノ出産價ニ七  
百十万弗ナルコトヲ見タリ同報告ニ於テ諸運送鑛物及ビ地金ノ  
合計千三百四十万弗ニシテ其中子ブダ外九百十万弗ナルコトヲ  
見タリ又足下ノ報告ニ由テ合衆國中ニ産スル銘銅等ノ下等金  
屬合計ハ五百万弗ナルコトヲ知レリ今此下等金屬ノ合計ヨリ子  
ブダノ産高百三十万弗ヲ減ズル寸ハ他ノ諸州ノ産高ハ三百七  
十万弗ナリ今此三百七十万弗ヲ前ノ二額七百十万弗九百十万  
弗ノ合額千六百二十万弗ヨリ減ズル寸ハ殘ル所ノ額ハ子ブ  
州外銀産全額ニシテ千二百五十万弗ナリ此殘額ニ加フ

ワダ州ノ銀産ニ 九 十萬弗ヲ以スレバ其合額ハ四  
十萬弗ニシテ殆ト是下ノ報告表ニ記シタル千八百七十六年  
國銀産四千五百五十萬六千六百七十二弗ト符合スルナリ  
是ニ於テ吾將ニ是下實サントス通運ニ係ル銀地金及ビ諸運送  
鑛石下等地金中ノ銀ノ合計千二百五十萬弗トナシ其子ワダ州  
外ノ金銀高ナルヲ疑ヒナシトナシ其中ニ多少金ヲ雜フルヲア  
ルカ答其割合僅少ニシテ殆ト計算スルニ是ラズ  
五 問 百十然リト雖氏是下能ク下官ヲ助ケテ其中ノ金幾割ナルヲ  
ヲ探究スルヲ得ルヤ今其割合ノ多少ニ関セス唯其中ニ金ア  
リヤ否ヤヲ知ラント欲ス是下ノ想像ニ於テ其割合幾何ナルベ  
キヤ答蓋シ僅ニ二分許ナルベシ吾等アリゾナ坑ニ付信ズベキ  
報告ヲ待ルニ由ナシ然レ氏我ヲ以テ觀ルニアリゾナハ多ク金  
ヲ出サズ十五年前我社ノ通運録アリゾナヲ經シテアリ今年ア

アリゾナノ金業ヲ策スルニ付諸種ノ運送者ニ就テ探訪セ 唯未  
ダ合衆國飛脚船ニ問フニ及バザルノニ因テ概算スルニアリ  
ナハ多ク金ヲ發送セシトナシ又合衆國諸造幣場ニ就テ各地ヨ  
リ來ル所ノ金屬ヲ問フヲ得ルナリ造幣場ニ於テモ亦多クア  
リゾナノ金ヲ見シトナシ  
六 問 百十是下ハアリゾナノ金産ヲ以テ十萬三千弗ト為スカ答然  
リ銀産ハ之ニ以スレバ甚ダ多ク且其計甚頗ル精覈ナリ其訳ハ  
一ロ、コロラド河ニ運輸シ一ロハイチヤン、ウエルス、ホルトコ  
一ロ、サンデーゴニ送致シ又一ロハニューメキシコニ馬車線ヲ取  
テ發送ス而シテ此三口ニ出ス所ノ銀額甚ダ明瞭ニシテ證據ト  
為スニ足ル

七 問 百十今合衆國ノ貴金屬ノ産出高ヲ綜紀スル法數種アリヨ  
輸出造幣製造法ニ行監定司法曰ク州政府ノ吏員ニ

尚スル法曰通運 之リ而シテ通運法ハ是下ノ現ニ因  
ナリ此教法中是下ハ通運法ヲ以テ最モ信拠スベキ者ト爲シ  
モ精覈ノ者ト爲スカ答吾ハ固ヨリ我が法ヲ以テ最モ善シト爲  
スミッソーリー河以西金銀ヲ産スル各州各属地及び英領コロ  
ンビヤメキシコノ西沿海等ニ於テ我が通運會社ノ代理人アラザ  
ル所ナシ且吾等常ニ金銀ノ産出ニ関スル諸業体ノ者ト通信ス  
ルヲ以テ吾等ノ探訪ノ及ブ所蓋前ノ諸法ヲ行ス所ノ人ノ探訪  
ニ比スレバ頗ル正ク且キ廣キナリ  
問百十アリゾナノ鑛産ニ付或ル報告表ニアリゾナノ年産自  
万弗銀五十万弗ト記セリ此報告ノ日附ハ千八百七十六年七月  
十九日トアリ此報告ノ金銀合計及び内訳皆是下ノ計策ニ異ナ  
リ是下或ハ右ノ報告ヲ以テ拠ドコロアル者ト爲スカ答吾ハ之  
ニ答フルニ我が千八百七十六年十二月三十日ノ報告中第一章

ヲ以テセントス其意一曰ク或者ハアリゾナ及ビニューメキシコ  
ヨリ許多ノ金ヲ出スト云フト然レバ千八百四十八年以後此二州  
ヨリ合衆國造幣場ニ委託スル所ノ金合レテ二百七十一万弗ノ  
ミ之ヲ年ニ平均スレバ十萬弗ニ至ラズサレバ或者ノ説ハ拠ド  
コロナント爲スベシト  
問百十今運賃ノ事ヲ問ハント是下ハ全合衆國金銀ノ運送賃  
ヲ熟知スルカ答然リ  
問百ニ此運賃ハ重ニ從テ之ヲ定ムルカ又ハ價ニ從テ之ヲ定ム  
ルカ答通例從價運賃ナリ然レバ銀ハ其地金ナルト貨幣ナルト  
ヲ論セズ金ニ比スレバ其運賃五割乃至一倍多キナリ是其全タ  
ク大ナルガ故ナリ  
問百ニ是下ノ説ク所ハ專ラウエルスハルコ社ニ係ルカ人ノ者  
送業ニ係ルカ答ハ送業ノ汽車トヲ論ヤズ從價運賃ヲ以テ

習ト為ス

問百ニ 汽船其他ノ水運ニ於テモ亦價ニ從テ運賃ヲ定ムルカ  
然ラズ蓋シ絶エテ之ナキナリ

問百ニ 例ヘバ金百万弗ヲサンフランシスコヨリオグデンニ送  
リ又銀百万弗ヲ同所ヨリ同所ニ送ラント欲スルコアラニ金  
ノ運賃ト銀ノ運賃トニ差異アリヤ答然リ金ハ千弗ニ付四弗五  
十錢ナリ銀ハ千弗ニ付七弗ナリ

問百ニ サンフランシスコヨリニューヨーク迄ノ運賃ハ如何

金ハ千弗ニ付四弗五十錢銀ハ千弗ニ付十五弗ナリ

問百ニ 金ハニューヨークニ送ルトオグデンニ送ルト其運賃ヲ同  
クシ銀ハ之ヲ倍ス請フ其説ヲ聞カン答合衆国飛脚船ノ競争ヲ  
防グガ為ナリ此飛脚船ノ運賃ハサンフランシスコヨリニユー  
ルク迄トサンフランシスコヨリサクラメント若クハ此ノ均キ

近地迄ト相同キナリ遠近ニ由テ高低ヲ為サズ又飛脚船ノ通常  
ノ運送ニ於テ其載スル所ノ貨幣ヲ保險セズ我が通運社ハ之ヲ  
保險スルナリ

問百ニ 今足下ノ説ク所ヲ明言スレバ貴社ノ運賃ハ全合衆國中  
ニ在ラハ銀地金銀貨幣ノ運賃ハ金地金銀貨幣ノ運賃ニ同  
ト云フナルカ答然リ

問百ニ 吾太平洋沿海ノ諸所ヲ往返スル汽船及ビ帆船ノ金銀運  
賃ヲ知ラントス足下之ヲ説クコトヲ得ルカ答金銀皆同レ但シ從  
價ナリ

問百ニ 足下ノ説ク所ハ專ラ貴通運社ノ關係スル船舶ニ関スル  
カ又ハ他ノ船舶ヲ兼テ之ヲ云フヤ答太平洋沿海ニ於テ定期  
駛航スル一切ノ船舶ニ係ル

問百ニ 吾足下ノ 八十七十六年ミッソリ一河以西諸州諸

銀産出表ニ於テ  
一、英領コロンビヤ二百二十万弗英領コロンビヤ百四十  
万弗ト記シタルノ觀タリ此高ハ又メキシコノ自家計策ノ其國  
金銀産出表及ビ英領コロンビヤノ自家計策ノ其地金銀産出表  
ニ複出スルコトナキヤ答國ヨリ應ニ複出スベシ  
二、問百三、今唯メキシコノ事ヲ問ハンメキシコノ太平洋沿海ノ金  
銀産出ヲ二百二十万弗ト為シ之ヲ合衆國ノサンフランシスコ  
等ノ地ニ輸スコトアレバ合衆國ニ於テハ之ヲ輸入ト看做シ海關  
ニ於テ之ヲ簿記スルカ答然リ  
三、問百三、英領コロンビヤノ金銀ニ於テモ亦然ルヤ答英領コロ  
ンビヤニ付テハ然ラズ旅人ノ攜帶シテ来ル者頗ル多シ而シテ此  
金ノ輸入ヲ簿記スルノ手段ナシ吾等我が社ノ通運ニ係リタル  
高ノ一割許ヲ以テ旅人ノ攜帶シテ来ル所ノ高ト為シ我が社ノ  
通運高ニ十三万千弗ヲ加ヘテ總計百四十四万千弗トナシ之ヲ

以テ千八百七十六年英領コロンビヤヨリ輸入ノ額ト為シタリ  
一、問百三、通運ヲ經タル金砂金地金ノ部ニ英領コロンビヤ百三十一  
万弗トアリ海關ニ於テ之ヲ簿記セリヤ  
二、問百三、吾ノ問ノ所ニ隨テ一々是下ノ答ヲ聽クコトヲ得タリ是下  
猶説キ殘セシ所アリヤ答否ナシナレ

ゼーバレンタイン



